

KORG

Pa700

Professional Arranger

クイック・ガイド

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。



マークには次のような意味があります。






このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性があります。



- ・電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- ・電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。
感電やショート恐れがあります。
- ・本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。



- ・次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。
 - 電源コードやプラグが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき
- 修理が必要なときは、お客様相談窓口へ依頼してください。



- ・本製品を分解したり改造したりしない。



- ・修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。
- ・電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけたりしない。また、電源コードの上に重いものをのせない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- ・大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。
大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- ・本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。
- ・温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管をしない。
- ・振動の多い場所で使用や保管をしない。
- ・ホコリの多い場所で使用や保管をしない。



- ・風呂場、シャワー室で使用や保管をしない。



- ・雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管をしない。
- ・本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
- ・本製品に液体をこぼさない。



- ・濡れた手で本製品を使用しない。

⚠ 注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性
または物理的損害が発生する可能性があります。



- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。
- 本製品の移動時は、本体とスタンドを別にし、必ず2人以上で持ち上げる。
- 長時間使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を抜く。
- 電池は幼児の手の届かないところへ保管する。



- 長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。
電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。



- 付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。
付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。
本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- 電池を過度の熱源（日光、火など）にさらさない。
- スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。
故障の原因になります。
- 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。
- 不安定な場所に置かない。
本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。
- 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。
本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。
- 地震時は本製品に近づかない。
- 本製品に前後方向から無理な力を加えない。
本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。
- ディスプレイを破損するおそれがあるので、次のようなことは絶対にしない。
 - シャープ・ペンシルのように先の鋭いもの、硬いものでLCD画面を強く押しついたりこすったりする。
 - ディスプレイの隅を、ペンや爪などで強くこする。
 本製品が損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。

電池について



警告 — 電池を飲み込まないでください。化学的反応による傷害の危険があります。

この製品はコイン型リチウム電池を含んでいます。

コイン型リチウム電池を飲み込むと、2時間足らずで重大な体内損傷を引き起こし、死に至ることがあります。

新しい電池および使用済みの電池は、子供の手の届かないところに保管してください。電池収納部がしっかり閉まらない場合は、製品の使用を中止し、子供の手の届かないところに保管してください。

電池を飲み込んでしまった、または電池を飲み込んだ疑いがある場合は、直ちに医師の診断を受けてください。

注意 — 電池を交換するときは、必ず同一または同等の銘柄や種類のものを使用する。違うものと交換した場合は、爆発の危険があります。内蔵時計バックアップ用電池は、ご自身で交換することができます。

- 長時間使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を抜く。
- 電池を過度の熱源（日光、火など）にさらさない。

LCDディスプレイについて

本製品のLCDディスプレイは、非常に高い技術で作られた精密機器であり、品質には十分に注意を払っておりますが、次の内容については、LCDディスプレイの特性から生じる状態であり、故障ではありません。あらかじめご了承ください。

- 画面の一部に黒点(点灯しない点)や輝点(常に点灯する点)がある。
- 表示内容によっては、画面の明るさにムラが生じる。
- 表示内容によっては、横縞の陰が見える。
- 表示内容によっては、ちらつきやモアレを生じる。

著作権について

- ・著作権者から許諾を得ていない著作物を、個人、家庭内、またはその他のこれに準ずる限られた範囲以外で使用した場合、著作権侵害となり、損害賠償を含む補償を負う場合があります。

そのような著作物を録音したものはもちろん、著作物に手を加えて作られたものにも、著作権者の権利が含まれています。これら成果物の転載、配布などは、著作権侵害となります。

著作権侵害によって発生した損害賠償などは、当社は一切の責任を負いかねます。

- ・本製品に内蔵もしくは同梱されたコンテンツそのものを取り出し、または酷似した形態で記録もしくは録音して、配布やインターネット上で公開することは許されていません。

本製品のコンテンツ（音色プログラム、スタイル・データ、伴奏パターン、MIDIデータ、PCMサンプル・データ、オーディオ・データ、オペレーティング・システムなど）の著作権は株式会社コルグに有するか、または株式会社コルグが第三者から使用許諾を受けている著作物です。

上記コンテンツを使用して、作品を制作または演奏し、それらを録音、配布することについては、当社の許諾を必要としません。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。大切なデータは、あらかじめ他のメディア等へセーブしておいてください。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

また、本製品の使用に伴い、メディアに書き込んだデータの消失、破損などの、お客様に対してなされた損害賠償請求に基づく損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

オート・パワー・オフ機能について

本機は演奏、コントロール・パネルやタッチスクリーンの操作など全く操作しない時間が2時間経過すると、節電のため自動的に電源がオフになります。オート・パワー・オフ機能が作動するような時間放置する場合は、作成したデータ（パフォーマンス、スタイル、ソングなど）を保存してください。

目次

パート I	1 はじめに
	2 イン트로ダクション
	13 アクセサリーの使用法
	17 電源
	21 インターフェイスの基本
パート II	33 演奏する、歌う
	34 サウンドの演奏
	44 鍵盤のカスタマイズ
	54 テンポとメトロノーム
	58 スタイル・プレイ
	70 スタイルのカスタマイズ
	74 コード・シーケンサー
	76 パッドの演奏
	78 ソングの再生
	89 歌詞、コード、楽譜、マーカー
	96 KAOSSエフェクトを使う
	103 ファイルやその他のアイテムの検索
パート III	107 ソングブック
	108 ソングブックを使う
パート IV	119 ソングの録音、スタイルの作成
	120 MIDIソングの録音
	125 MP3ソングの録音
	128 MIDIソングをスタイルに変換する
パート V	131 ビデオ出力とオーディオ入力
	132 外部ディスプレイとの接続
	134 オーディオ入力の接続
	140 観客とのトーク
	141 ボイス/ギター・エフェクト

パート VI 147 付録

148 オプションの取り付け

156 仕様

パートⅠ:はじめに

01 イン트로ダクション

Pa700へようこそ

このたびはコルグ・プロフェッショナル・アレンジャー Pa700をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本機はプロフェッショナル用として、またご家庭用として、あらゆるシーンで十分に満足いただけるパワフルなアレンジ機能をもった自動伴奏機能を装備したアンサンブル・ピアノです。本機の素晴らしいサウンドを末永くお楽しみください。

スリム、パワフル、簡単操作

高級感のあるデザインは、ステージやご家庭で映えるプロフェッショナルでスタイリッシュなルックスを醸し出します。メイン・パネルのキーやノブなどは分かりやすく配置され、簡単に操作できます。

また、本機は現実世界の様々なオブジェクトをアイコンで再現し、それらが分かりやすくレイアウトされたタッチ・スクリーンで、簡単に操作することができます。

リアルなソロやバンド体験

本機は、ライブ・パフォーマンスも曲作りも等しくアシストできるように設計されています。リアルでナチュラルなサウンドや綿密に作成されたスタイルは、腕利きのミュージシャンたちが作り上げたもので、あらゆる音楽スタイルでも、まさに本物のバンドと演奏しているような感覚が得られます。

また本機は、初心者からベテラン・キーボーディストまた、あらゆるレベルのプレイヤーに適した、ナチュラルで反応の良い61鍵キーボードを採用し、リアルな演奏感覚で思いどおりにコントロールすることができます。

よりリアルなサウンド

本機は、クラシックやコンテンポラリーなキーボード・サウンド、バンドやオーケストラ・サウンドなどを幅広く内蔵しています。ダンパーやボディの共鳴を再現したマルチ・レイヤーのステレオ・グランド・ピアノや、エレクトリック・ピアノ、管楽器やベース、極めてリアルなアコースティック、エレクトリック・ギターなどはもちろんのこと、リーケージ(音漏れ)や打鍵時のノイズも再現したデジタル・ドローパー式オルガン・サウンドも内蔵しています。

これらのサウンドは最新テクノロジーで収録され、コルグ独自のEDS-X (エンハンスト・ディフィニション・シンセシス・エクパンデッド)方式サウンド・エンジン

により、サウンドのリアルさをそのままに再現します。また、内蔵サンプルとサウンド・エディター機能により、新規作成した音色やインポートしたサウンドを、ユーザー・メモリーに多数保存することができます。

これらのリアルなサウンドはすべて、コルグ独自のDNC(ディファインド・ニュアンス・コントロール)システムにより、繊細なニュアンスや音色そのものの变化まで、幅広い音色コントロールが行えます。たとえば、サクスのグロウルや、トランペット、クラリネット、ハーモニカなどの息の感じ、ストリングス・セクションのピチカートやボウイング(弓弾き)などのコントロールを、ジョイスティックやアサイナブル・スイッチで行えます。サクスの音が上下する際のキーの開閉のニュアンスまでも感じられます。

自然な聴き心地

本機の音色は、独立したEQ(イコライザー)とスタジオ品質のエフェクト・プロセッサーにより、リアルなサウンドがより磨かれてステレオ・オーディオ・アウトから出力されます。エフェクト・プロセッサーは、リバーブやディレイなどのスタンダードなものから、ボコーダーやリアルなアンプ・シミュレーター、ビンテージ・エフェクターを再現したものまで、豊富なタイプを内蔵しています。また、最終段のマスターリング・エフェクトで、音をより大きく、クリアでフルボディの磨かれたサウンドにすることができます。

高品位の内蔵スピーカーからのサウンドは、小さな音量でもクリアでリアルなもので、深夜の練習にも役立ちます。

専属のバンドがスタンバイ

本機は、極めてリアルなサウンドで、演奏する音楽にフィットする自動伴奏スタイルが常にスタンバイしています。あらゆる音楽ジャンルを満たす多数のスタイルがあり、追加拡張することもできます。スタイルは新規に作成したり、既存のものをカスタマイズしたり、MIDIソングをスタイルに変換することも簡単に行なえます。

本機にはコード演奏に従って自動演奏をする8つのパートがあります。また、フィル・インを自動的に選択できるオート・フィル機能を内蔵しています。これにより、もっとも簡単な方法で、巧みなジャズ・プレーヤーの贅沢な伴奏やハーモニーを楽しむことができます。もちろん、どんなときにも本当のバンド演奏のように自然に聞こえるよう高度にプログラムされています。

本機は、便利なコード・シーケンサー機能も内蔵しています。この機能は、コード進行をレコーディングし、すぐにその進行に沿ってリアルタイム演奏ができるので、練習に役立つだけでなく、ライブなどでの煩雑なコード演奏を省力化できるメリットもあります。レコーディングしたコード・シーケンスは、スタイルやソングブック・エントリーに保存でき、簡単に呼び出すことができます。

ソングの再生と録音

MIDIフォーマット、およびMP3フォーマットのソングが再生できます。ソングやスタイルで、ボーカリストに歌詞を表示したり、ギタリスト等の一緒に演奏するメンバーに、コードを表示することができます。また、MIDIソングの各トラックを読み込んで、楽譜に変換し表示することもできます。さらに、リハーサルや練習をするときに、任意のリピート・ポイントに移動するためのマーカーを使うこともできます。

ビデオ・アウトを使用すれば、歌詞や楽譜を外部ディスプレイに表示できるので、カラオケやバンドの演奏に最適です。

フル機能のシーケンサーを使用してMIDIソングを録音したり、スタイルを使ったライブ演奏を記録することもできます。さらに、ボーカルやMP3ソングを含む本機での演奏をMP3ファイルとして簡単に録音でき、パーティやドライブなど、あなたの好きな場所で好きな仲間と一緒に聴くことができます。

ソングブック

本機は非常に多くのミュージック・データベースを内蔵しています。この膨大なコレクションから好みのスタイルやソングを探し出すのは、非常に時間がかかります。しかし本機のソングブックを使えば曲名、アーティスト、ジャンルやテンポに基づいたミュージック・データベースから、素早く希望に合ったスタイルやソングを簡単に呼び出すことができます。

この機能は特にライブで便利です。ライブで演奏するために用意したセット・リスト（曲順）の各曲を、パネル上のキーに割り当てすることもできます。ライブ演奏に必要なスタイルやソング、サウンドに瞬時にアクセスでき、ライブ全体を指先の操作ひとつでコントロールすることができます。

ソングブックはパソコン用のフリー・エディターで編集できます。また、サード・パーティ製ソフトウェアを利用すれば、タブレット端末をソングブックと同期した電子楽譜にすることもできます。

自然なボーカル・サウンド

本機にダイナミック・マイクを接続し、EQやコンプレッサー、ゲート、リバーブやディレイなどのパラメーターを調節して、スムーズでスタジオ品質のボーカル・サウンドに上げることができます。また、ボーカル・リムーバー機能を使用して、MP3ソングに収録されているボーカルをカットし、それに合わせて歌うこともできます。

充実したギター用エフェクト

本機は、リア・パネルにギター用インプット端子を装備し、本機のエフェクトでギターの音色を加工することができます。チューブ・アンプやリアルなディストーション、コーラスやディレイ、高品位のスタジオ・リバーブなど、コルグならではの高品質ギター・エフェクトを豊富に内蔵しています。

KAOSSエフェクトによるクリエイティブなコントロール

本機は、ライブなどのパフォーマンスでクリエイティブなコントロールができる、KAOSSエフェクトを内蔵しています。バリエーションやドラム・キット・タイプの微妙なモーフィングや、自動伴奏のサウンドや演奏中のリズムなどの細かなミキシングから、DJライクなラディカルで破壊的なものや、テープ・ディレイ風エフェクトやアルペジオに至るまで、「流れるようなミキシング」をあらゆるスタイルやMIDIソングで簡単に行えます。KAOSSエフェクトを使用すれば、ありきたちの音楽を打ち破ることができます！

汎用性の高いインターフェイス、フォーマット

ファイルを交換する際、ソングにMIDやMP3フォーマットを、あるいはサンプルにWAVとAIFFフォーマットなどのスタンダードなフォーマットを使用することで、その可能性は更に広がります。USB端子を経由すれば、MIDIインターフェース無しでPa700と外部ストレージデバイスやパソコン、スマートフォン、タブレットや外部コントローラーを接続することができます。とはいえ、Pa700にはプログラム可能なMIDIポートが完備されているため、従来のどのようなMIDI楽器にも接続することができます。

それだけではありません！

他にも数多くの、知れば知るほど本機をもっと探求したくなるほどの機能を本機は内蔵しています。本機は、これまでで最もエキサイティングでパワフルな使いやすいアレンジャー・キーボードです。Pa700で、ミュージック・ライフをより豊かに楽しみください。

演奏を始める前に

パッケージの確認

最初に付属品等がすべて揃っているかどうかをお確かめください。

- Pa700本体
- 譜面立て
- 電源コード
- クイック・ガイド(本書)
本書のほかに、ユーザー・マニュアル(PDF)を用意しています。ユーザー・マニュアルはコルグ・ウェブサイト(www.korg.com)からダウンロードしてください。

オプションについて

本機のオプション(別売)は以下のとおりです。

- EXP-2フット・コントローラー
- XVP-10、XVP-20エクスプレッション/ボリューム・ペダル
- DS-1Hダンパー・ペダル(ハーフ・ダンパー対応)
- PS-1、PS-3ペダル・スイッチ

Pa700の最新情報について

コルグでは、Pa700の情報をコルグ・ウェブサイト(www.korg.com)で提供しています。

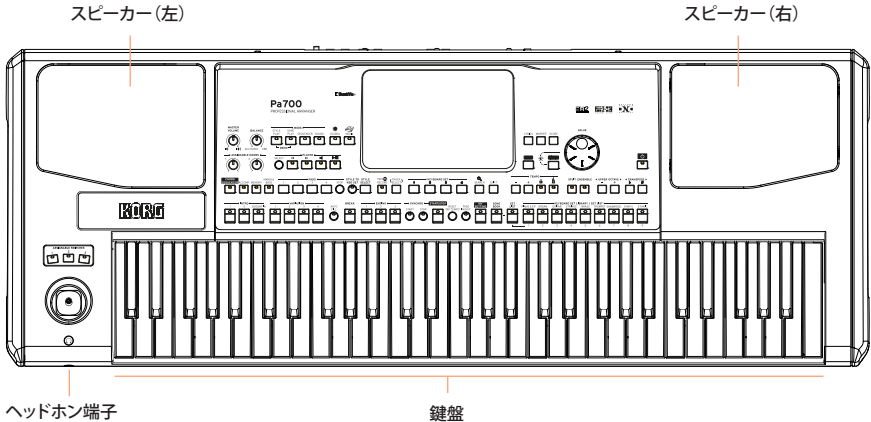
オペレーティング・システムの最新版やさまざまなシステム・ファイル(たとえば、ファクトリー・データのバックアップなど)があります。

各部の名称と機能

ここではフロント・パネルとリア・パネルの各部の名称と機能の説明をします。

フロント・パネル

フロント・パネルは、本機をコントロールする各種コントローラーや内蔵スピーカー、譜面立て用の穴が配置されています。



スピーカー

MASTER VOLUMEノブで、内蔵スピーカーの音量やAUDIO OUT端子の出力を調節します。

ヘッドホンを接続すると、スピーカーからは自動的に音が出なくなります。また、**Global > Audio & Video > MP3/Speaker**ページを開き、**Speakers**チェック・ボックスからチェックを外すことで、スピーカーを手動でオフにできます。

ヘッドホン端子

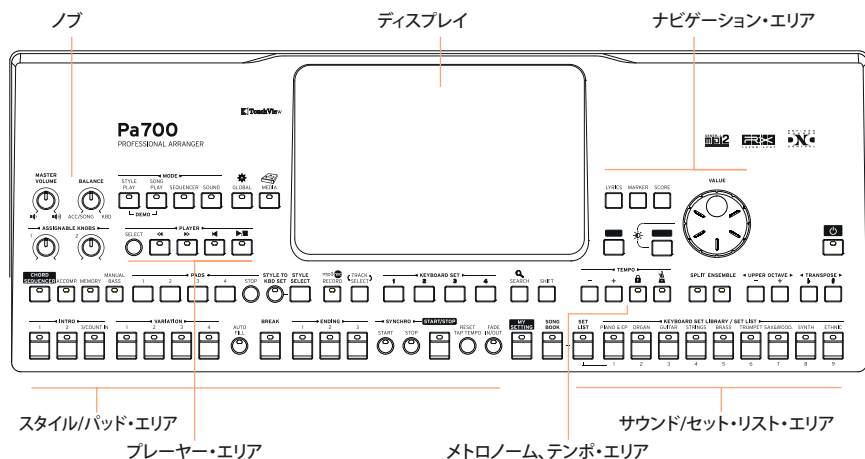
この端子にはヘッドホンを接続します。接続できるヘッドホンのインピーダンスは16Ω～200Ωです(50Ω推奨)。

鍵盤

鍵盤でメロディーやコードを弾きます。SPLITのLEDが点灯しているときは、設定した分割位置を境に音域を変えたり、別の音色を弾いたりすることができます。

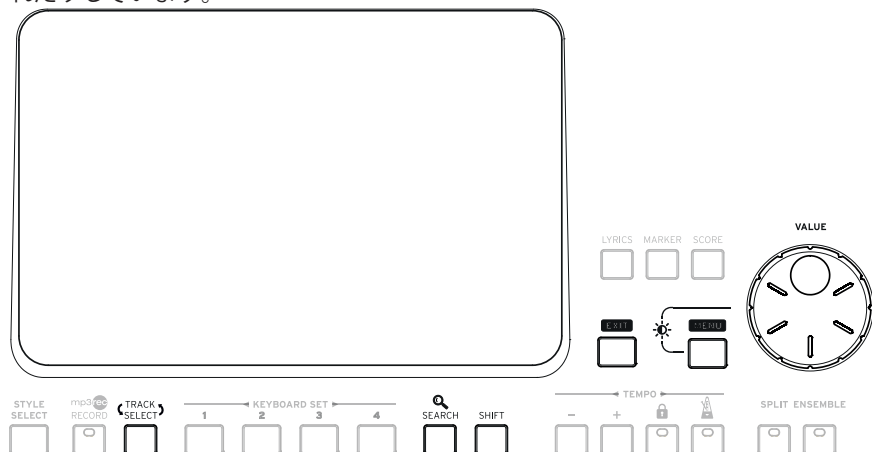
コントロール・パネル

コントロール・パネルには、本機をコントロールする各種コントローラーが機能別に配置されています。



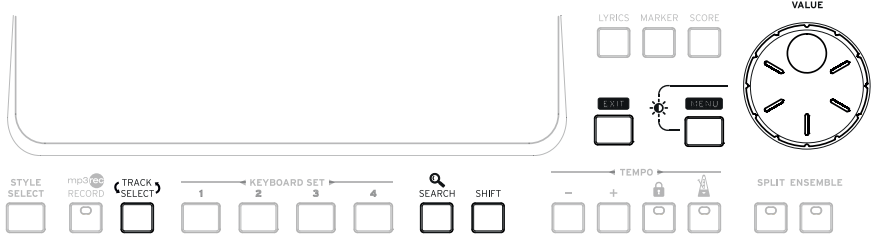
ディスプレイ

タッチビュー・スクリーンに表示される内容の選択や、パラメーターの設定などの操作を行います。ディスプレイの周囲には、スクリーンに表示されるさまざまな内容を選択したり、パラメーターの設定などに役立つコントローラーが配置されています。



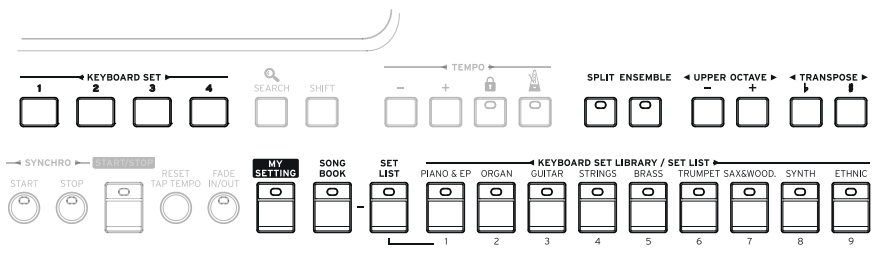
ナビゲーション・エリア

バリュー・ダイヤルや各キーで、モード内のページやパラメーターの設定、さまざまなミュージカル・リソースの検索などを行います。



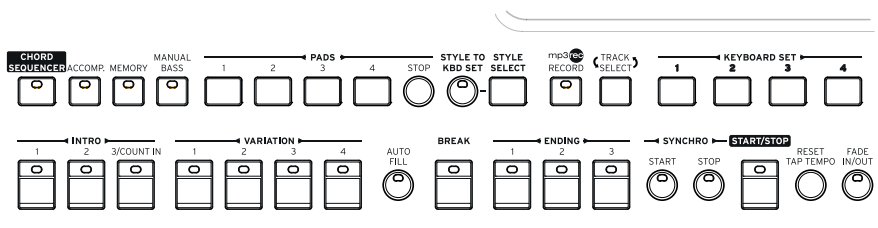
サウンド/セット・リスト・エリア

サウンドとはキーボードで演奏する音色を指します。このエリアで、専用ライブラリーにキーボード・セットとして保存されている各種サウンド・セットを選択します。またこのエリアで、サウンド・セットとそれに関連したスタイルやソングをまとめたソングブックのセット・リストを選択することもできます。



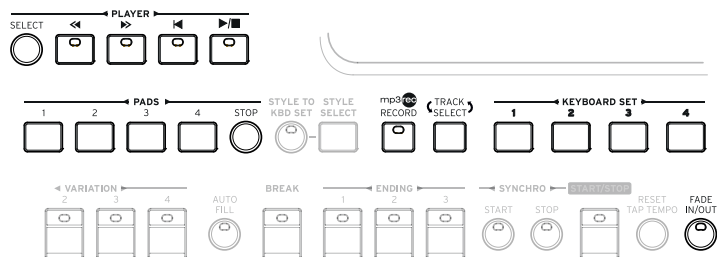
スタイル/パッド・エリア

自動伴奏(アコンパニメント)に使用するスタイル・エレメントをコントロールします。アコンパニメントに合わせて、選択したキーボード・セットのサウンドやパッドで演奏することができます。



プレーヤー・エリア

ソングの再生はプレーヤー・エリアのキーでコントロールします。ソングに合わせて、選択したキーボード・セットのサウンドやパッドで演奏することができます。



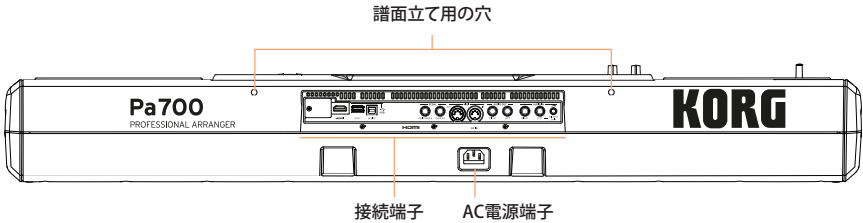
メトロノーム、テンポ・エリア

各キーでメトロノームを使った練習やスタイル、ソング、およびメトロノームのテンポを設定します。



リア・パネル

リア・パネルには、各種外部機と接続する端子が配置されています。

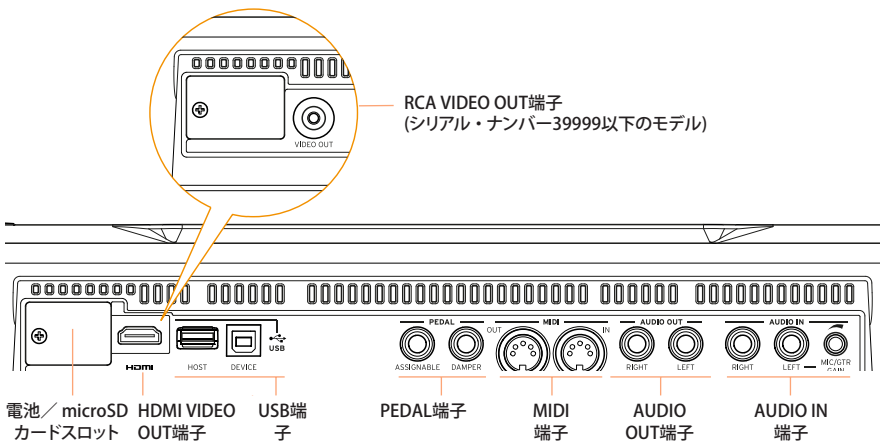


譜面立て

Pa700は譜面立てを付属しています。譜面立ての足の部分をリア・パネルの譜面立て用の穴に差し込みます。

電源端子

付属のIEC電源コードをこの端子に接続します。



電池/microSDカード・スロット

この部分に、内部時計用電池とmicroSDカードのスロットがあります。

HDMI/RCA VIDEO OUT 端子

Pa700をTVやビデオ・モニターに接続することで、歌詞やコードをより大きなモニターへ表示させる、または本機のディスプレイの表示内容をそのままミラーリングさせることができます。シリアル・ナンバー 39999以下のモデルにはRCAビデオ端子が配置され、シリアル・ナンバー 40000以上のモデルにはHDMI端子が配置されています。

USB端子

本機とパソコンやタブレットを接続する際に使用します (DEVICE)。また、USBメモリーやコントローラーなどのUSB-MIDI機器を接続する際にも使用します (HOST)。

PEDAL端子

ダンパー・ペダルはDAMPER端子に、エクスプレッション・ペダルなどのコンティニュアス・ペダルやフットスイッチはASSIGNABLE端子にそれぞれ接続します。

MIDI端子

本機をマスター・キーボードやMIDIギター、ウィンド・コントローラー、MIDIアコーディオン、MIDIペダル・ボードなどのコントローラーと接続するときや、外部音源モジュール、MIDIインターフェイスを介してコンピューターに接続するときに、この端子を使用します。

AUDIO OUT端子

本機からのオーディオ信号をミキサーやPAシステム、パワード・モニターや家庭用ステレオに接続します。

AUDIO IN端子

マイクやギター、その他楽器を接続します。MP3プレーヤーなどのメディア・プレーヤーや、スマートフォン、タブレットなどからのオーディオ信号も接続できます。

02 アクセサリーの使用法

ペダルを使う

ダンパー・ペダルを使う

ダンパー・ペダルは、リア・パネルのPEDAL端子のDAMPER端子に接続します。ダンパー・ペダルは、コルグPS-1、PS-3、またはDS-1H（いずれも別売）が使用できます。DS-1Hはアコースティック・ピアノ音色でのハーフ・ペダリング奏法に対応したペダルです。**Concert Grand**の音色で演奏しながら、ペダルを徐々に踏んでいくと、ピアノ音の余（リリース）が徐々に伸びていくのが聴き取れます。

ペダルの極性変換やキャリブレーション（調整）が必要な場合は、**Global > Controllers > Foot**ページで各種設定が行えます。

その他のペダルやフットスイッチを使う

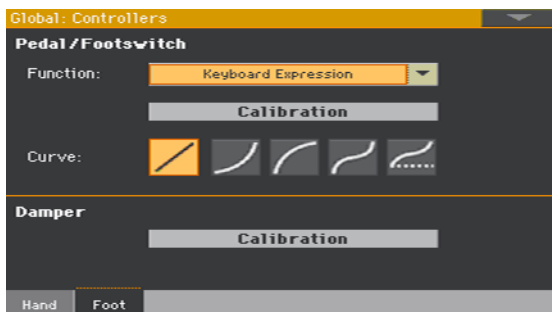
コルグPS-1、PS-3、DS-1Hなどのフットスイッチ（別売）や、コルグXVP-10、EXP-2 フット・コントローラー（別売）、VOX V860ボリューム・ペダル（別売）は、リア・パネルのPEDAL端子のASSIGNABLE端子に接続します。

本機の初期設定では、この端子はエクスプレッション・ペダルとして動作するように設定されています。この端子の機能を変更する場合や、ペダルの極性変換、ペダルのキャリブレーションをする場合は、**Global > Controllers > Foot**ページで行います。

ペダルが正しく動作しない場合

ボリューム・ペダルやエクスプレッション・ペダルの可動範囲をフルに使用できていない場合は、ペダルのキャリブレーションをする必要があります。また、ペダルの操作と本機の動作が逆になっている場合は、ペダルの極性を変換する必要があります。

- 1 Global > Controllers > Footページに入ります。



- 2 キャリブレーションをするペダル (Pedal/FootswitchまたはDamper) のCalibrateボタンをタッチします。するとDamper & Pedal/Footswitch Calibrationダイアログ・ボックスが表示されます。



- 3 ペダルを完全に踏み込んだ状態にしたまま上のボタンをタッチすると、ペダルのその位置が最大値となります。
- 4 下のダイアログ・ボックスが表示されたら、ペダルから足を離します。



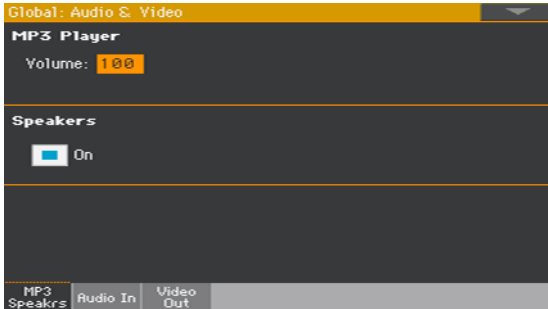
- 5 下のボタンをタッチすると、ペダルのそのときの位置が最低値になります。ペダルを操作して正しく動作しているかどうかをお確かめください。動作が正しくない場合は、上記操作を繰り返します。
- 6 コントロール・パネルのEXITキーを押すと、キャリブレーションが終了し元のページに戻ります。

内蔵スピーカーのオン、オフ

内蔵スピーカーは、ヘッドホン端子にヘッドホンを接続すると自動的にオフになります。また、ディスプレイからの操作でオフにすることもできます。

スピーカーをオフにする(またはオンにする)

- 1 Global > Audio & Video > MP3/Speakersページに入ります。



- 2 Speakers On/Offチェック・ボックスをタッチして、内蔵スピーカーのオン、オフを切り替えます。
- 3 コントロール・パネルのEXITキーを押すと、元のページに戻ります。

ヘッドホンを使う

本体左前にあるヘッドホン端子にヘッドホンを接続します。インピーダンスが16Ω～200Ω(50Ω推奨)のヘッドホンが使えます。ヘッドホンを接続すると、内蔵スピーカーからの音は出なくなります。

ヘッドホンの出力はMASTER VOLUMEノブで調節します。

オーディオ・アウトの接続をする

AUDIO OUT端子は、ミキサーやパワード・モニター、オーディオ・アンプに接続するときに使用します。端子は6.3mmフォーン・ジャックの不平衡(TS)です。

家庭用ステレオなどのオーディオ・アンプに接続する場合は、ケーブルの一端をCDやLINE IN(ライン入力)端子またはTAPE/AUXイン端子に接続します。PHONO端子には接続しないでください。

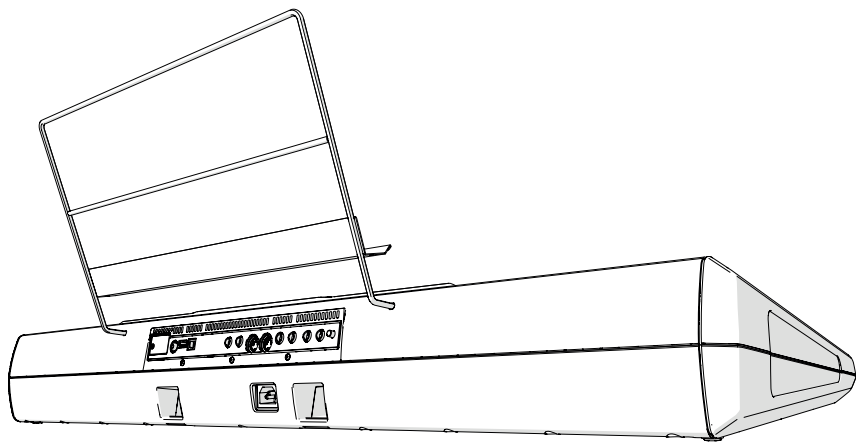
本機のLEFTまたはRIGHT端子のいずれか1つだけを使用した場合、出力はモノ（モノラル）になります。

出力はコントロール・パネルのMASTER VOLUMEノブで調節します。

内蔵スピーカーをオフにしていない場合、内蔵スピーカーとオーディオ出力端子の両方から音が出力されます。

譜面立ての取り付け

下図のように、付属の譜面立ての足の部分をリア・パネルの2つの譜面立て用の穴に差し込んでください。



注意：譜面立ての取り付けは、譜面立ての足をリア・パネルの譜面立て用穴に対して少し上方向に挿入し、譜面立ての足が本体に当たるところまで押し込んでください。

03 電源

電源をオンにする

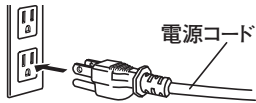
AC電源コードの接続

電源コードのプラグには、アース端子が付いています。感電と機器の損傷を防ぐために、アース接続を確実に行って、コンセントに接続します。

注意：電源は必ずAC100Vを使用してください。

接地極付きコンセントに接続する場合

設置極付きコンセント



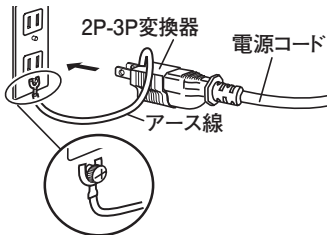
接地極付きコンセントに、AC電源コードのプラグをそのまま差し込んでください。

アース端子付きコンセントに接続する場合

AC電源コードのプラグに、2P-3P変換器を取り付けます。そして、コンセントのアース端子にアース線を接続し、2P-3P変換器のプラグを差し込みます。

注意：アース接続は、コンセントにプラグを差し込む前に行ってください。また、アース接続を外すときは、コンセントからプラグを抜いてから行ってください。

アース端子付きコンセント




2P-3P変換器のアース線のU字端子にカバーが付いている場合は、カバーをはずして使用してください。

必要に応じてケーブル類を接続してください。本機はこの状態でスタンバイ状態になります。


注意：スタンバイ状態は、電源ラインから完全に切り離されていません。この状態で本機の内部を触るのは非常に危険です。本機の電源を完全に切るときは、壁のコンセントからAC電源コードを必ず抜いてください。

電源のオン、オフ

電源のオン

- コントロール・パネルの電源キー（）を押して、本機の電源をオンにします（これによりスタンバイ状態が解除されます）。電源をオンにして数秒後に、ディスプレイに初期画面が表示され、しばらくするとスタイル・プレイ・モードのメイン・ページが表示されます。

電源のオフ（スタンバイ）

- 電源キー（）を押したままにし、画面表示が少し暗くなったらキーを離します。この時点で電源をオフにする処理が始まり、数秒後に電源がオフになります。電源がオフになるまでは、AC電源コードを本機やコンセントから絶対に外さないでください。

画面のキャリブレーション

タッチビュー・ディスプレイのキャリブレーション

本機を新しいオペレーティング・システムに更新した後などは、タッチビュー・ディスプレイのキャリブレーションを行い、ディスプレイのタッチ入力をより正確に調整します。

より正確に調整をするには、ペンのキャップやタブレットのスタイラス・ペンを使用してください。

注意：先端が鋭利なものは使用しないでください。ディスプレイを破損する恐れがあります。

- 下記のTouch Panel Calibrationページがディスプレイに表示されるまでコントロール・パネルのGLOBALキーを押し続けます。

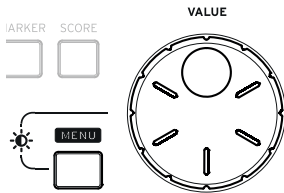


- 2 最初にディスプレイの左上に表示される、矢印の中心を正確にタッチします。
 - 3 矢印の集合形は、ディスプレイの他の角へ移動します。矢印の中心を正確にタッチします。
 - 4 最後にSaveボタンをタッチして、キャリブレーションを確定します。
- キャリブレーションを途中でキャンセルするときは、コントロール・パネルのEXITキーを押します。

ディスプレイの明るさを調整する

周囲の明るさに応じて、ディスプレイの明るさを調整します。

- コントロール・パネルのMENUキーを押しながら、VALUEダイヤルを回してディスプレイの明るさを調整します。

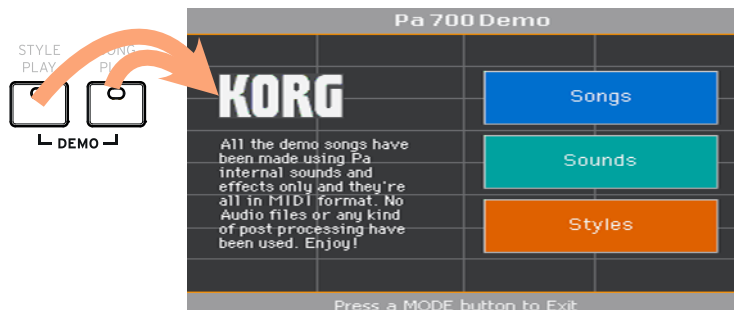


デモ・ソングを聞く

デモ・ソングの再生

デモ・モードに入る

- コントロール・パネルのSTYLE PLAYキーとSONG PLAYキーを同時に押します。



デモ・ソングを聞く

- デモ・モードに入ってから、ディスプレイのタッチ操作をしないと、すべてのデモ・ソングを順番に再生します。

デモ・ソングを選ぶ

- 特定のデモ・ソングを聴きたい場合は、タイプ (Songs、Sounds、Styles) を選んでから聴きたいデモ・ソングを選択します。

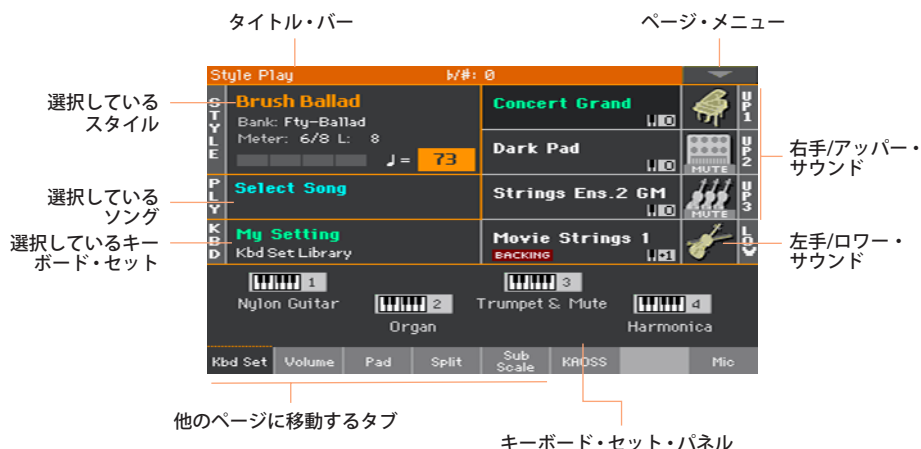
デモ・モードから出る

- コントロール・パネルのいずれかのMODEキーを押すと、デモ・モードが終了して選択したモードに戻ります。

04 インターフェイスの基本

メイン・ページ

本機の電源をオンにしたときは、常にスタイル・プレイ・モードのメイン・ページが表示されます。スタイル・プレイ・モードの各ページからこのページに戻るときは、EXITキーを押します。また、違うモードにいるときは、STYLE PLAYキーを押してこのページに戻ります。



インターフェイスの詳細

ディスプレイと各ユーザー・インターフェイスについて

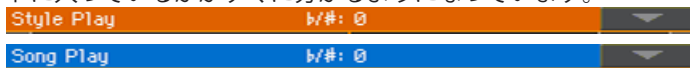
カラー・タッチビュー GUI

本機は、タッチパネル式LCDスクリーンをベースにした、コルグ独自の使いやすいタッチビュー・グラフィック・ユーザー・インターフェイスを採用しています。画面上に表示される各種アイテムにタッチすることで、ページやタブ、パラメーターの選択や、パラメーターの値の調節が行えます。

モードについて

本機の各種ページは、モード単位でグループ分けされています。各モードには、コントロール・パネルの各モード・キーを押して入ります。

各モードの画面は、モードごとに色分けされており、画面を見ただけでどのモードに入っているかがすぐに分かるようになっています。



グローバル (Global) とメディア (Media) の各モードのページは、そのときに入っているモードの画面に重ねて表示されます。

レコード・モードは、スタイル・プレイ、シーケンサー、サウンドの各モードから入ることができ、新しいスタイルやパッド、ソング、サンプルを作成できます。

エディット・メニューの選択

コントロール・パネルのMENUキーを押すと、そのモードのエディット・メニューが表示されます。エディット・メニューをタッチすると、その中のページに入ります。



ページとタブについて

各種パラメーターは、ページごとにグループ分けされており、ディスプレイの下部エリアにあるタブをタッチしてページを選択します。



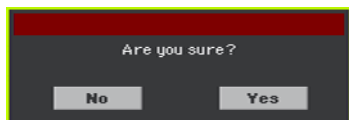
重なって表示される画面

Style SelectやSound Select、GlobalやMedia、Lyrics（歌詞）の画面は、そのときに開いている画面に重ねて表示されます。重ねて表示された画面からアイテムを選択したり、コントロール・パネルのEXITキーを押すと、その画面が閉じて下の画面が表示されます（下図はKeyboard Set Select画面です）。



ダイアログ・ボックス

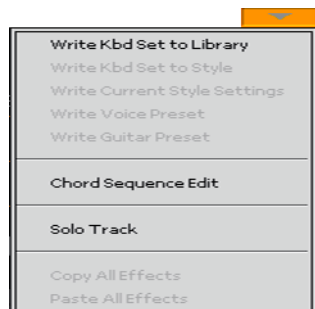
上記のような選択画面の他にも、ダイアログ・ボックスもそのとき選択している画面に重ねて表示されます。ダイアログ・ボックス上のボタンをタッチすると、そのダイアログ・ボックスが閉じます。



ページ・メニュー

ディスプレイ右上隅の▼が入った小さな四角形をタッチすると、そのとき開いているページに関連する各種コマンドが入ったページ・メニューが開きます。

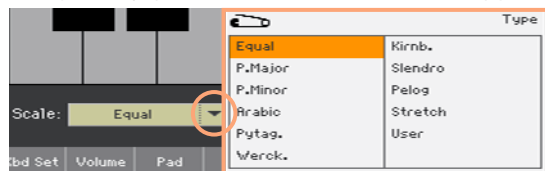
ページ・メニュー上のコマンドをタッチして選択します。また、コマンドを選択せず、ページ・メニュー以外の画面上の任意の場所をタッチすると、ページ・メニューが閉じます。



ポップアップ・メニュー

パラメーター名の右側に▼が表示されている場合、それをタッチするとポップアップ・メニューが開き、そのパラメーターの値をタッチしたり、コントロール・パネルのVALUEダイヤルを回して選択します。

ポップアップ・メニューに表示されたアイテムを選択せず、メニュー以外の画面上の任意の位置をタッチすると、メニューが閉じます。



リストとスクロール・バー

ストレージ・メディアに保存されているファイルや各種データは、リスト状に表示されます。リストのスクロール・バーにタッチしてスクロールし、内容を確認することができます。また、コントロール・パネルのVALUEダイヤルを回してスクロールさせることもできます。

リスト上部の**Name**ラベルを選択し、コントロール・パネルの**SHIFT**キーを押しながら**Name**ラベルの矢印のいずれかをタッチすると、そのときに表示されているファイルなどの、ABC順で次(または前)の頭文字から始まるファイルなどが表示されます。

選択した
ラベル

選択した
アイテム

リスト



スクロール・
バー

パラメーター

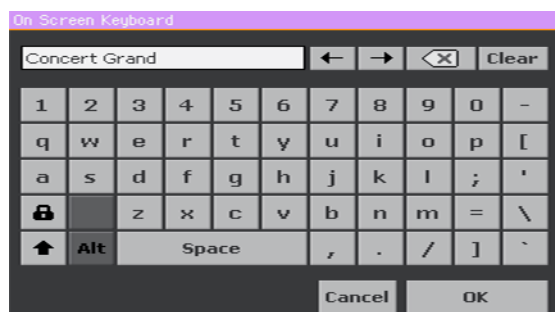
チェック・ボックス

オン/オフ・タイプのパラメーターです。タッチすると設定が切り替わります。



名前の変更

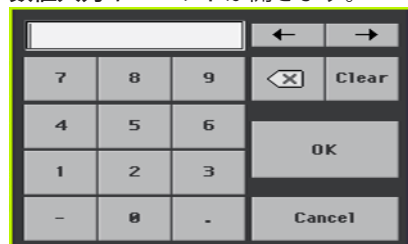
名前の後にテキスト・エディット・ボタン(**T**)が表示された場合、ボタンをタッチするとテキスト・エディット画面が開き、名前が変更できます。



画面に表示されるバーチャル・キーボードは、パソコンなどのキーボードと同様の配列になっています。本機で使用できない文字は表示されず、使用できる文字のみがキーボードに表示されます。

数値入力フィールド

値が数値のパラメーターを調節する場合、そのパラメーターを2回タッチすると数値入力キーパッドが開きます。






数値入力キーパッドも、パソコンのテンキーと同様の配列になっています。

別の方法として、数値入力のパラメーターをタッチしたまま、指を上（または右）にスライドすると数値が増え、下（または左）にスライドすると数値が減ります。

このようなパラメーターは、主にさまざまなページのテンポ入力などがあります。

アイコン

ファイルやフォルダー、ソングなどは、次のようなアイコンで表示されます。

アイコン	内容
	フォルダー
	ファイルまたはスタイル・バンク
	MIDファイル

パラメーターが選択された状態（反転表示）

パラメーターやデータ、リストの内容などの変更や調節は、反転表示されたものだけにのみ実行されます。最初にパラメーターやアイテムをタッチして選択し、変更や調節などの操作をします。ほとんどのパラメーターは、コントロール・パネルのVALUEダイヤルで変更や調節ができます。



選択できない、薄く表示されているパラメーター

設定などにより、そのとき使用できないパラメーターは、薄く表示されます。この場合、そのパラメーターは選択できない状態ですが、他の設定にしたり別のページに切り替えたりすると、使用可能になる場合もあります。



バーチャル・コントローラー

バーチャル・スライダー

バーチャル・スライダーのポジションを調節するには、スライダーをタッチしたまま指を上下にスライドします。または、スライダーをタッチし、コントロール・パネルのVALUEダイヤルを回してそのポジションを調節します。



バーチャル・ノブ

バーチャル・ノブのポジションを調節するには、ノブをタッチしたまま、指を上(または右)にスライドすると時計回りにノブが回り、指を下(または左)にスライドすると反時計回りにノブが回ります。または、ノブをタッチしてコントロール・パネルのVALUEダイヤルでノブのポジションを調節します。



バーチャル・ドローバー

バーチャル・ドローバーのポジションを調節するには、ドローバーをタッチしたまま、指を上または下にスライドします。または、ドローバーをタッチし、コントロール・パネルのVALUEダイヤルでそのポジションを調節します。



ページの操作

ページを開く

クイック・ガイドでは、ページの場所を下記のように説明します。

Style Play > Mixer/Tuning > EQ Gain

モード

エディット・セクション

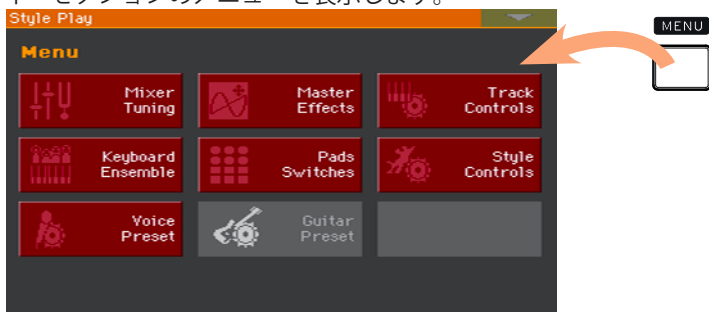
ページ

上記のページ画面に移動してみましょう:

- 1 コントロール・パネルのSTYLE PLAYキーを押してスタイル・プレイ・モードに入ります。本機の電源を入れたときは、いつでも下記のスタイル・プレイ・モードのメイン・ページが表示されます。



- 2 コントロール・パネルのMENUキーを押してスタイル・プレイ・モードのエディット・セクションのメニューを表示します。



- 3 エディット・セクション・メニューのMixer/TuningボタンをタッチしてMixer/Tuningエディット・セクションに移動します。



選択したエディット・セクションは常にタイトル・バーに表示されます。

Style Play: Mixer/Tuning

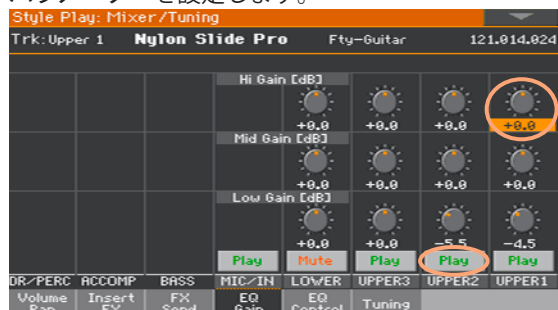
モード

エディット・セクション

- 4 EQ Gainページが表示されていないときは、ディスプレイ下部のEQ GainタブをタッチしてEQ Controlページを表示します。



- 5 パラメーターを設定します。



- 6 同じエディット・セクションの別のページを表示してみましょう。Volume/Pan ページに移動するときは、ディスプレイ左下のVolume/Panタブをタッチします。



- 7 コントロール・パネルのEXITキーを押すと、スタイル・プレイ・モードのメイン・ページに戻ることができます。



同じように、ソング・プレイ・モードのエディット・セクションの各ページが表示されているときにEXITキーを押すと、ソング・プレイ・モードのメイン・ページに戻ることができます。

ミュージカル・リソースの選択

選択ウィンドウを開く

コントロール・パネルのKEYBOARD SET LIBRARYキー、または画面のキーボード・セット、サウンド、スタイル、パッド、またはボイス/ギター・プリセットをタッチすると、それぞれに対応する選択ウィンドウが表示されます。ここではサウンド選択ウィンドウ(SOUND SELECT)で説明します。



EXITキーを押すと、選択ウィンドウを開く前の画面に戻ることができます。

選択ウィンドウはEXITキーを押さない限り閉じません。何もしないで数秒経過すると自動的に閉じるようにするときは、Display Hold/パラメーターをオフにしてください(41ページの「ディスプレイ・ホールド」参照)。

パート II: 演奏する、 歌う

05 サウンドの演奏

サウンドとキーボード・セット

サウンドはアレンジャー・キーボードの基本となるものです。本機には、ピアノやストリングス、シンセサイザーなど豊富なサウンドを内蔵しています。サウンドのセットをキーボード・セットに記憶させることができます。

キーボード・セットを選択すると、そのセットに記憶されている各サウンドや、それらのトランスポーズ、エフェクトやその他の情報などさまざまな設定が自動的に呼び出されます。

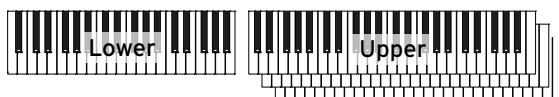
キーボード・セット

Lowerサウンド

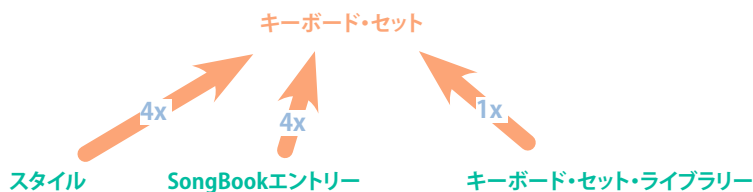
Upper 1サウンド

Upper 2サウンド

Upper 3サウンド



これらのキーボード・セットはキーボード・セットLibrary (KEYBOARD SET LIBRARYボタン)の中に個々に含まれています。これらはスタイルやSongBookエントリーにも連動します。スタイルやSongBookエントリー (ディスプレイの下部にあるKEYBOARD SETボタン)を選ぶと、4つのキーボード・セットから成る1つのグループがその都度自動的に自動的に選択されます。



マイ・セッティングの選択

「マイ・セッティング」キーボード・セットの選択

- コントロール・パネルのMY SETTINGキーを押します。

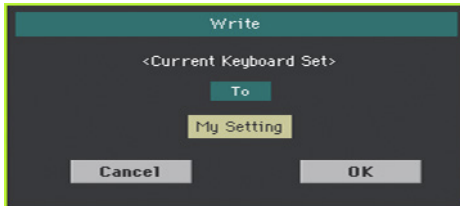
マイ・セッティングは、本機の電源をオンにしたときに自動的に選択される特別なキーボード・セットです。

マイ・セッティング・キーボード・セット

マイ・セッティングは特別なキーボード・セットで、キーボード・サウンド、エフェクト、アサイナブル・スイッチ、スタイルの各種設定をまとめて保存しておき、本機の電源をオンにしたときに選択するようにできます。このキーボード・セットは、楽器をオンにすると自動的に選択され、自動的に楽器を設定します。

マイ・セッティング・キーボード・セットの作成

コントロール・パネルのMY SETTINGキーを1秒ほど長押しして、Write Startup Settingsダイアログ・ボックスを表示させ、OKボタンをタッチすると保存を実行します。



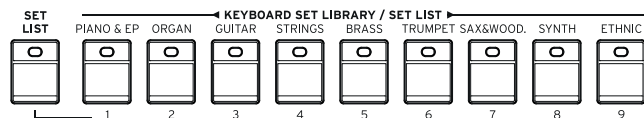
演奏するサウンドの選択

キーボード・セットをライブラリーから選択する

キーボード・セットは専用のライブラリーに記憶され、コントロール・パネルまたはディスプレイから選択します。

コントロール・パネルのキーでキーボード・セット選択ウィンドウを開く

- 1 コントロール・パネルのSET LISTのLEDがオフになっていることを確認します。
- 2 KEYBOARD SET LIBRARYセクションのいずれかのキーを押します。各キーの上部には、楽器のタイプが表記されています。



ディスプレイをタッチしてキーボード・セット選択ウィンドウを開く

- メイン・ページが表示されているときに選択しているキーボード・セット名をタッチします。



キー、またはディスプレイをタッチするとすぐに、キーボード・セット選択ウィンドウが表示されます。

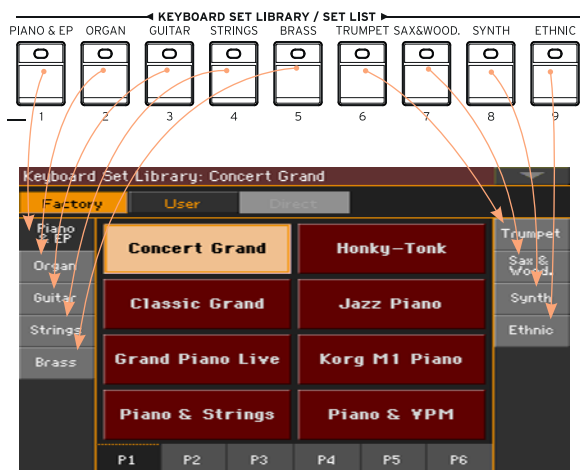


キーボード・セットの選択

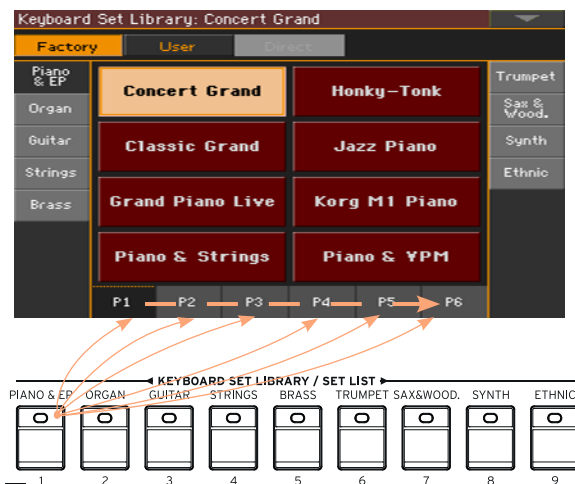
- 1 画面上部には、キーボード・セットを記憶しているバンクが表示されます。

タイプ	意味
Factory	スタンダードなキーボード・セットです。内容の変更はできません。
User	外部記憶デバイスからロードしたキーボード・セットや、エディットをして新たに保存したキーボード・セットです。
Direct	本機にロードすることなく、外部記憶デバイスから直接呼び出せるキーボード・セットです。

- 2 違う楽器タイプのキーボード・セットを選ぶときは、コントロール・パネルの **KEYBOARD SET LIBRARY** セクションの別のキーが、ディスプレイの両サイドの楽器タイプ・ボタンをタッチしてタイプを切り替えます。



- 3 楽器のタイプの中にはP1～P6のページがあります。ページを変更するときは、コントロール・パネルの **KEYBOARD SET LIBRARY** セクションの現在選んでいる楽器のタイプ・キーを繰り返し押すか、ディスプレイの下のページ・タブをタッチしてページを切り替えます。



- 4 ディスプレイに表示されているキーボード・セット名をタッチして選択します。



- 5 選択が終わったらEXITキーを押して、メイン・ページに戻ります。

メイン・ページに戻ると、選択したキーボード・セット名が左下に表示され、キーボード・セットを構成しているサウンドの名前がディスプレイの右半分に表示されます。

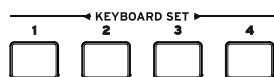


スタイルやソングブック・エントリーからキーボード・セットを選択する

各スタイルやソングブック・エントリーには、それぞれに合った内容のキーボード・セットが4種類記憶されています。この4種類のいずれかを、コントロール・パネルのキーまたはディスプレイから選択することができます。

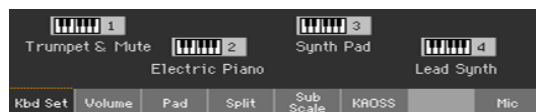
コントロール・パネルのキーを押して選択する

- KEYBOARD SETセクションのいずれかのキーを押します。



ディスプレイのボタンをタッチして選択する

- 1 メイン・ページの画面下部にキーボード・セット (Kbd Set) エリアが表示されていることを確認してください。表示されない場合は、Kbd Setタブをタッチします。



- 2 表示されているキーボード・セット名のいずれかをタッチして選択します。
このとき、選択したキーボード・セット名が反転表示され、そのセットの内容が画面右半分に表示されます。

デジタル・ドローバー

オルガンの楽器タイプには、キーボード・セット名に「DWB」という略称が入ったものがあります。このようなキーボード・セットには、ビンテージのエレクトロ・メカニカル・オルガンをシミュレートした、デジタル・ドローバーによるサウンドが入っています。

ディスプレイ・ホールド

サウンド、キーボード・セットやスタイルを選ぶ場合は、それぞれの選択ウィンドウが表示されます。いろいろなエレメントを確認する場合は、この選択ウィンドウが開いたままの状態が便利ですが、選択して数秒後に自動的にこのウィンドウを閉じて、各メイン・ページへ戻るようにすることもできます。これは **Display Hold** パラメーターの設定で切り替えます。

ディスプレイ・ホールドのオン、オフの切り替え

- 1 **Global > General Controls > Interface** ページを開きます。
- 2 **Display Hold** パラメーターのオン、オフを設定します。
 - オンのときは **Display Hold** の **On** チェック・ボックスにチェックを付けます。この場合はサウンド、キーボード・セット、スタイル、パッドやボイス/ギター・プリセットの選択ウィンドウは、コントロール・パネルの **EXIT** キーを押すまで開いたままになります。
 - オフのときは **Display Hold** の **On** チェック・ボックスのチェックを外します。この場合は、サウンド、キーボード・セット、スタイル、パッド、ボイスまたはギター・プリセットの選択ウィンドウは、何もしない状態が数秒続くと自動的に閉じて、各メイン・ページを表示します。
- 3 コントロール・パネルの **EXIT** キーを押して、元のページに戻ります。

ファクトリー、ユーザー、ダイレクト

いくつかのページには、ファクトリー (Factory)、ユーザー (User)、ダイレクト (Direct) という語が表示されます。これらは、上書き保存ができる、できないなどの違いがあります。

- **Factory** (と**Local**) (キーボード・セット、サウンド、スタイル、パッド、ボイス、ギター・プリセット)は、基本的にエディットや上書き保存ができません。これらは、SongBookエントリーなどのミュージカル・リソースがリンクされたスタイルなどのミュージカル・リソースを常に参照できるように保証するためです。
- **User** (キーボード・セット、サウンド、スタイル、パッド、ボイスとギター・プリセット) は、エディットも上書き保存もできます。また、画面サイドに表示されるユーザー・スタイル・バンクは、自由に名前を変更してオリジナルのカテゴリーを作成することができます。
- **Direct** (キーボード・セット、スタイル、パッド、ソングブック・エントリー、ボイスやギター・プリセット) は、外部記憶デバイスから直接アクセスできるデータです。

サウンドの演奏とコントロール

キーボードの演奏

本機のキーボードはピアノの鍵盤と同様の演奏ができます。

ペダルを使う

ペダルはその設定により機能が変化します。ダンパー・ペダルはペダルを踏んでいる間だけ演奏した音を長く伸ばすときに使用します。アサイナブル・ペダル(またはフットスイッチ)は、Global > **Controllers** > **Foot**ページでの設定に従って動作します。

アサイナブル・ノブを使う

アサイナブル・ノブは、それぞれのサウンドの音量調節やオルガンのドローバーなど、機能を割り当てて使用します。ノブの機能設定はGlobal > **Controllers** > **Knobs**ページで行います。

アサイナブル・スイッチを使う

選択したキーボード・セットと割り当てられているDNC(ダイナミック・ニュアンス・コントロール)機能によって、動作する機能が変わります。このスイッチは演奏中にDNC機能を実行させたいときや、スイッチを押すことでDNC機能のオン、オフを切り替えるときに使用します。

LEDの状態	意味
消灯	DNC機能が割り当てられていない状態です。
赤の点灯	外部記憶デバイスからロードしたキーボード・セットや、エディットして新たに保存したキーボード・セットです。
赤の点滅	設定されているDNC機能の実行を待機している状態です。実行するとLEDが赤の点灯に変わります。
緑の点灯	オン/オフ・タイプのDNC機能が使用可能な状態です。
緑の点滅	DNC機能をオンにした状態です。もう一度押すとオフになります。

ジョイスティックを使う

本機のキーボードの左側にあるジョイスティックを左右に倒すとサウンドの音程が変化します。前方に倒すと多くの場合はモジュレーションが起こりますが、実際の動作は選択したサウンドによって変化します。エレクトロ・メカニカル・オルガン・サウンドの場合は、ジョイスティックを前方に倒すとロータリー・スピーカー・エフェクトのスピードが切り替わります。また、ジョイスティックを手前に倒した場合の動作は、サウンドによって変化しますので、いろいろなサウンドでお試ください。

06 鍵盤のカスタマイズ

右手と左手で異なるサウンドの演奏

鍵盤のスプリット・モードとフル・モード

スプリット・モードにする

- コントロール・パネルのSPLITキーを押してLEDを点灯させます。このとき鍵盤はロワー（左手）とアッパー（右手）のパートに分かれます。



スプリット・モードからアッパー・サウンドだけのフル・モードに戻す

- もう一度SPLITキーを押してLEDを消灯させます。アッパー・パートのサウンド（たとえば、アコースティック・ピアノ）で全鍵盤を弾くフル・モードに戻ります。



スプリット・モード、フル・モードのサウンド

SPLITのLEDの点灯、消灯によりサウンドとサウンド数が変更されます。

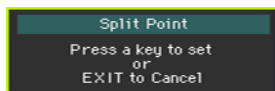
SPLIT LED	モード	左手(ロワー)サウンド	右手(アッパー)サウンド
消灯	フル	ロワー・サウンドなし	鍵盤全体に割り当てられた最大3つのアッパー・サウンド
点灯	スプリット	左手用に鍵盤に割り当てられたロワー・サウンド	右手用に鍵盤に割り当てられたアッパー・サウンド

スプリット・ポイントを変更する

アップパー・サウンドとロワー・サウンドの分割ポイントを変更することができます。これをスプリット・ポイントと呼びます。

コントロール・パネルを使ってスプリット・ポイントを変更する

- 1 Split Pointダイアログ・ボックスが表示されるまで、SPLITキーを押します。



- 2 アップパー（右手）パートの最低音にするノート（音）を、鍵盤上で指定します。

ディスプレイを使ってスプリット・ポイントを変更する

- 1 メイン・ページを表示しているときにSplitタブをタッチしてSplit Pointパネルを表示します。



- 2 ディスプレイ上のキーボードをタッチし、アップパー（右手）パートの最低音にするノート（音）を鍵盤上で指定します。

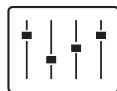
ディスプレイ上のスプリット・ポイント・パラメーターをタッチして選択し、VALUEダイヤルで新しくノート（音）を設定する方法もあります。

パート、トラック、チャンネル

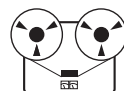
鍵盤は、Upper、Lowerのキーボードパートのそれぞれにサウンドが割り当てられています。スタイルやMIDIのソングでは、サウンドが直接アレンジャーやシーケンサー・トラックに割り当てられ、パターンや録音したシーケンスが演奏されます。トラックはミキサー・チャンネルに対応する、レコーダーのトラックに相当します。実際に、Pa700はレコーダーやデジタル・ミキサーを搭載しています。



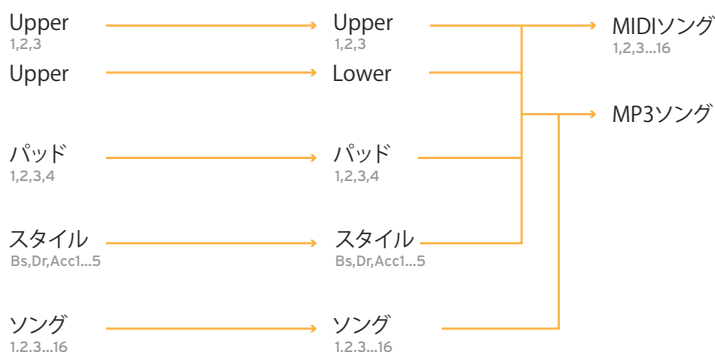
サウンド/パート/トラック



ミキサー・チャンネル



録音済みのトラック

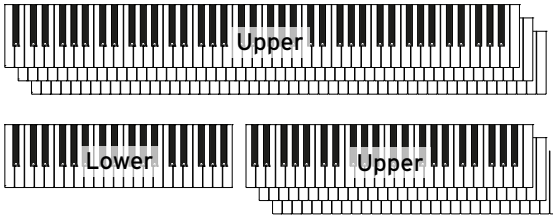


複数サウンドの同時演奏

鍵盤サウンドのオン、オフ切り替え

最大で3つのサウンドをアップパー・トラックに重ねて演奏することができます。たとえば、グランド・ピアノにストリングスやシンセ・パッドのサウンドを重ねたいときなどに便利です。サウンドはアップパー・パートのサウンドとして割り当てられます。

SPLITのLEDが消灯しているとき(フル・モード)は、アコースティック・ピアノを選んだときのように鍵盤全体を使って弾くことができます。また、SPLITのLEDが点灯しているとき(スプリット・モード)は、右手のパートとしてアップパー・サウンドを弾くことができます。

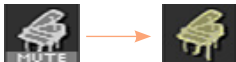


ディスプレイを使ってサウンドをオン、オフにする(プレイ、ミュート)

- 演奏しないサウンドがプレイでミュート(消音)されない場合は、楽器アイコンをタッチしてPLAY/MUTEアイコンを表示させ、サウンドを無効(ミュート)にします。



- 演奏するサウンドがミュートされている場合は、楽器アイコンの下にPLAY/MUTEアイコンが表示されますので、タッチしてアイコンを消して、サウンドを有効(プレイ)にします。



別のサウンドを選択する

サウンドの選択

別のサウンドを組み合わせることもできます。この組み合わせはキーボード・セットに保存することができます。

ディスプレイを使ってサウンド選択ウィンドウを開く

- 1 スタイル・プレイ・モードまたはソング・プレイ・モードのメイン・ページを開いていることを確認してください。それ以外のページが開いている場合は、コントロール・パネルのSTYLE PLAYまたはSONG PLAYキーを押します。
- 2 組み合わせを変更するサウンド名をタッチします。
- 3 変更するサウンド名をタッチします。

サウンドを選択する

- 1 サウンド選択ウィンドウをブラウズします。



- 画面上部のサウンドのタイプをタッチして選択します。

サウンドのタイプ 意味	
Factory	エディットや上書き保存ができない本機のサウンドです。リッチでモダンな音色を豊富に内蔵しています。
Legacy	これまでのPaシリーズと互換性のあるレガシー・サウンドです。
Local	特定の市場国を対象にしたモデルには、Factoryサウンドとしてカスタマイズされたローカルタイプ・サウンドが搭載されています。
GM/XG	GM (ジェネラルMIDI) やXG規格で制作されたMIDIソングと互換性のある、サウンドやドラムキットです。
User	外部記憶デバイスに保存されているものや、エディットして本機のユーザー・メモリーに保存したサウンドやドラムキットです。

- 別のサウンドのグループを選ぶ場合は、画面両サイドのタブをタッチします。
 - 選択したサウンドのグループ内のページを移動するには、画面下部のP1 ～ P6タブをタッチします。
- 2 選択するサウンド名をタッチします。
 - 3 コントロール・パネルのEXITキーを押してサウンド選択ウィンドウを閉じます。

キーボード・サウンドのミキシング

各サウンドの音量調節

本機はデジタル・ミキサーを内蔵しています。一般的なミキサーと同様、各サウンドの音量を調節でき、キーボードで演奏するサウンドなどのバランスを調節できます。

ディスプレイを使って各サウンドの音量を調節する

- 1 メイン・ページのVolumeタブをタッチします。



アカンパニメント・グループ

キーボード・サウンド

- 2 音量を調節するミキサーのチャンネルをタッチします。
 - 3 画面のバーチャル・ボリューム・スライダーをタッチしたまま指をスライドして、音量を調節します。
- 別の方法として、ミキサー・チャンネルをタッチしてからVALUEダイヤルでレベルを変更することもできます。

ボリューム・パネルで各サウンドのオン、オフ

音を出したくないサウンドは、ミュート（消音）することができます。



ミキサー・チャンネルを選ぶ

- オン、オフを切り替えるミキサー・チャンネルを選択します。

チャンネルをオフにする（ミュート）

- サウンドのミキサー・チャンネルのプレイ・アイコン()をタッチし、ミュート・アイコン()にします。

チャンネルをオンにする（プレイ）

- サウンドのミキサー・チャンネルのミュート・アイコン()をタッチし、プレイ・アイコン()にします。

オクターブ、トランスポーズの設定

すべてのアッパー・サウンドをオクターブ単位で変更

すべてのアッパー・サウンドのオクターブ設定を変更する場合は、コントロール・パネルのキーを使ってオクターブの上げ下げをします。

1オクターブ上げる

- UPPER OCTAVE +キーを押します。

1オクターブ下げる

- UPPER OCTAVE -キーを押します。

オクターブ設定をリセットする

- 2つのUPPER OCTAVEキーを同時に押します。

トランスポーズの設定

他の楽器や歌に演奏とキー（調）が合わない場合に、本機全体の音をトランスポーズすることで演奏を合わせることができます。

トランスポーズの値は通常ページ・ヘッダーに表示されます。



トランスポーズの値を下げる

- コントロール・パネルのTRANSPOSE **b** (フラット) キーを押すたびに、マスター・トランスポーズの値が半音ずつ下がります。

トランスポーズの値を上げる

- コントロール・パネルのTRANSPOSE **#** (シャープ) キーを押すたびに、マスター・トランスポーズの値が半音ずつ上がります。

トランスポーズをリセットする

- 2つのTRANSPOSEキーを同時に押します。

メロディーにハーモニーを加える(アンサンブル機能)

アンサンブル機能は、左手で弾くコードと同じように、右手で弾いたメロディーにハーモニー演奏を加えます。なお、このアンサンブルにはいくつかのタイプがあります。

アンサンブル機能のオン、オフ

アンサンブル機能をオンにする

- 1 SPLITのLEDの点灯でスプリット・モードを確認します。
- 2 ENSEMBLEキーを押すとアンサンブル機能がオンになりLEDが点灯します。
左手でコードを、右手でメロディーを弾きます。メロディーにノートやコードのハーモニーが追加されたのが確認できます。

アンサンブル機能をオフにする

- ENSEMBLEキーを押すとアンサンブル機能がオフになりLEDが消灯します。

07 テンポとメトロノーム

テンポ

テンポの値の設定

テンポの値の設定は、各スタイルや各ソングに保存されていますが、自由に変更することができます。同様にメトロノームのテンポも設定できます。

コントロール・パネルでテンポの値を変更する

- コントロール・パネルの**TEMPO**キーでテンポの値(またはMP3ソングの速度)を設定します。

テンポの値を大幅に変更する場合は、コントロール・パネルの**SHIFT**キーを押しながら**VALUE**ダイヤルを回す方法もあります。

ディスプレイでテンポの値を変更する

- 1 テンポの値が反転表示になっていないときは、テンポの値をタッチします。



- 2 コントロール・パネルの**VALUE**ダイヤルでテンポの値を設定します。

または、テンポの値をもう一度タッチして**数値入力キーパッド**を開き、数値を入力してテンポの値を設定する方法もあります。

テンポの値をリセットする

- コントロール・パネルの**TEMPO**の+とーキーを同時に押します。

スタイルやMIDIソングに記憶されているテンポに戻ります。また、MP3ソングも記憶されているオリジナルの速度に戻ります。

スタイル停止時のテンポ・カウント表示

アカンパニメントを演奏していない状態では、コントロール・パネルのSTART/STOPキーのLEDが設定されているテンポに合わせて点滅します。

テンポの値を打ち込む(タップ・テンポ)

スタイル・プレイ・モードでは、テンポの値を打ち込んで(タップ・テンポ)設定することができます。

- スタイルを演奏していないときに、コントロール・パネルのRESET/TAP TEMPOキーを、設定する速度(テンポ)に合わせて、画面のMeterに表示されている拍子と同じ数(たとえば3/4拍子の場合は3回)だけ押します。

設定されたタップ・テンポでスタイル演奏を開始します。

テンポ・ロック

異なるスタイルやMIDIソングを選んだときに、自動的にテンポが変わるのを防ぐことができます。ただし、MP3ソングはテンポ・ロックとは無関係で、常に録音されている速度で再生されます。

テンポ・ロックを使うとスタイルやMIDIソングの切り替えにとらわれずに、自由にタップ・テンポ機能や手動でテンポの値を設定することができます。ただし、スタイル・プレイとソング・プレイでは別々のテンポになることに注意してください。

スタイルやソングを選んでもテンポを変えない

- コントロール・パネルのTEMPOのロック(🔒)キーを押して、LEDを点灯させます。この場合は、異なるスタイルやソングを選んでもテンポは変わりません。このテンポは前述の方法でテンポを自由に変更することができます。

スタイルやソングを選んだときに、それぞれの持っているテンポに変える


- コントロール・パネルのTEMPOのロック(🔒)キーを押して、LEDを消灯させます。この場合は、異なるスタイルやソングを選ぶと、それぞれの持っているテンポに変わります。

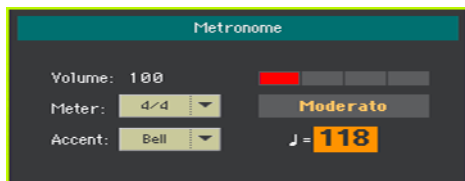
スタイル・パターンやMIDIソングに、テンポ・チェンジ・イベントが含まれる場合もテンポを変更します。

メトロノーム


メトロノームのオン、オフ

メトロノームをオンにする

- メトロノーム () キーを押してメトロノームのLEDを点灯させます。Metronomeウィンドウが表示され、現在設定されているテンポや拍子でメトロノームの再生を始めます。



メトロノームをオフにする

- メトロノーム () キーを押してメトロノームのLEDを消灯させます。メトロノームの再生が止まります。

拍子(メーター)、アクセント音、音量の設定

拍子や1拍目のアクセント音、音量の設定をします。

Metronomeウィンドウを開く

- メトロノーム () キーを押します。

拍子(メーター)を設定する

- Meterパラメーターで、拍子を設定します。

アクセント音の設定



- Accentパラメーターでアクセント音の設定をします。

アクセント音	意味
Off	アクセント音なし
On	各小節の1拍目にアクセント音が付きます。
Bell	各小節の1拍目にアクセントのベルの音が鳴ります。

メトロノーム音量の設定

- Volumeパラメーターでメトロノーム音量を設定します。

Metronomeウィンドウを閉じる

- メトロノーム () キーを押すと、メトロノームが止まり、Metronomeウィンドウが閉じます。
- コントロール・パネルのEXITキーを押すと、メトロノームが止まらずにMetronomeウィンドウが閉じます。その後、メトロノーム () キーを押すと、メトロノームが止まります。

08 スタイル・プレイ

スタイル

スタイルの選択

スタイルの選択はコントロール・パネルやディスプレイから行います。

スタイル・プレイ・モードに入る

- 本機の電源を入れたときはいつでも、スタイル・プレイ・モードになります。それ以外のときはコントロール・パネルのSTYLE PLAYキーを押してください。
- スタイル・プレイ・モードでもメイン・ページが表示されていないときは、コントロール・パネルのEXITキーを押してメイン・ページに戻ってください。

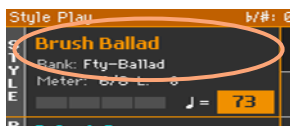


コントロール・パネルでスタイル選択ウィンドウを開く

- STYLE SELECTキーを押してください。

ディスプレイからスタイル選択ウィンドウを開く

- ディスプレイのスタイル名が表示されている部分をタッチしてください。



スタイルを選択する

- 1 スタイル名が表示されたスタイル選択ウィンドウ (STYLE SELECT) をご覧ください。



- ウィンドウの上部にあるボタンをタッチしてスタイルのタイプを選びます。

スタイルのタイプ 意味

Factory	標準スタイルのバンクです。エディットできません。
Local	特定の市場国を対象にしたモデルには、Factoryサウンドとしてカスタマイズされたローカルタイプ・サウンドが搭載されています。
User	外部デバイスから読み込んだスタイル、新規スタイル、エディットしたスタイルを保存しているバンクです。
Direct	外部デバイスから読み込まずに、直接アクセスできるスタイルのバンクです。

- ウィンドウの両サイドにあるタブの1つをタッチして、異なるスタイルのグループを選びます。



- ウィンドウの下にあるP1～P6のタブをタッチして、選択したスタイル・グループの中で使用可能なページを選びます。

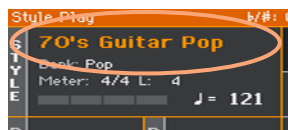


STYLE SELECTキーを何度か押して、異なるページを選ぶこともできます。

2 選択するスタイル・ネームをタッチします。

3 Style Selectウィンドウを閉じたい場合は(このウィンドウは自動的に閉じません)、EXITボタンを押します。

ウィンドウが閉じると、画面の特定のエリアに選択したスタイルが表示されます。



キーボード・サウンドの選択をスタイルの選択と連動させる

スタイルを選ぶだけで、キーボード・サウンドを自動的に選択させることができます。この機能はSTYLE TO KBD SETLEDの点灯状態により動作が変わります(KBD SETはキーボード・セットの略です)。

LEDの点灯状態	意味
消灯	スタイルを選択しても、キーボード・セットは選択されません。
点灯	スタイルを選択すると、自動的にキーボード・セット1が選択されます。
点滅	バリエーションの選択によって、それに対応するキーボード・セット(1～4)が選択されます。たとえばバリエーション2を選ぶとキーボード・セット2が、バリエーション3を選ぶとキーボード・セット3が自動的に選択されます。

スタイルとは?

スタイルは、8人編成のバンドと演奏するような、最大8つのパートの自動演奏で構成される特定の音楽ジャンル（または音楽スタイル）の音楽パターンのコレクションです。鍵盤で弾いたコードを認識すると、演奏に適応したパターンが再生されます。さまざまなセクションを駆使することで、リアルタイムで完全な曲を作成することができます。

アカンパニメント・パート

アカンパニメント・パートはちょうどバンドの伴奏メンバーのようなものです。本機を使うと、5人の音階楽器プレーヤー（たとえばギター、ピアノ、ストリングス、シンセサイザー）と、ベーシスト、ドラマー、パーカッション・プレーヤーを得るのと同じです。

コードとパターン

アカンパニメント・パターンは認識したコードに対応しながら変化する繰り返しのミュージカル・シーケンス（ベース・グループ、ギター・リフ、ピアノのコード進行など）です。これらはコードのタイプ（C Maj、C min、7thなど）に応じて異なります。

セクション

ソングは異なるセクション（イントロ、Aメロ、つなぎ、サビ1など）から構成されています。これらの各セクションには異なるパターンがあります。それらはスタイル・エレメントのキー（INTRO、VARIATION、AUTOFILL、BREAK、ENDING）に格納されています。イントロ、フィル、ブレイク、エンディングは対応するソングのセクション名と同じですが、バリエーションはAメロ、Bメロ、つなぎ、サビ1、サビ2などのセクションとして使います。なお、各エレメントのナンバーが多いほうが（1より4のほうが）、より複雑なアレンジになっています。



オート・フィル

本機はバリエーションの前に最適なフィルを自動的に演奏することができます。AUTO FILLをオンにしてLEDが点灯しているときは、バリエーションから異なるバリエーションに移るときに、フィルが自動的に設定されます。

マニュアル・アカンパニメントの演奏(ベース & ロワー・バックング)

本機では、シンプルなマニュアル・アカンパニメントによる演奏ができます。これは、左手で弾いたコードをベース(コードのルート)とロワー・サウンド(その他のコード構成音)に分けて演奏できる機能です。

- 1 初期設定では、ベース & ロワー・バックング機能がオンになっています。オンの場合、ロワー・サウンド・エリアに**Backing**アイコンが表示されています。



アイコンが表示されない場合は、**Global > Mode Preferences > Style 2**ページに移動し、**Bass & Lower Backing**チェック・ボックスを選択して機能を有効にします(このページでは機能を無効にすることもできます)。

- 2 コントロール・パネルの**SPLIT**のLEDが点灯し、自動アカンパニメントが演奏していないことを確認します。
- 3 左手でコードを弾きます。

このとき、コードのルートがベース・サウンドで演奏され、その他の構成音がロワー・サウンドで演奏されます(ロワー・サウンドがミュートしている状態でも演奏されます)。

自動伴奏の再生

再生の開始と停止

伴奏の開始と停止をコントロール・パネルで行います。

伴奏の開始

- 1 コントロール・パネルの**START/STOP**キーを押します。
- 2 右手でメロディーを弾きながら、左手でコードを弾きます。

各小節の1拍目に**START/STOP**キーのLEDが赤く点灯し、その他の拍では緑に点滅します。

伴奏を再生しているときに、ディスプレイの各表示が変化することを確認できます。



伴奏の停止

- コントロール・パネルの**START/STOP**キーをもう一度押します。

シンクロ・スタート/ストップ機能(自動開始/停止)

コントロール・パネルの**START/STOP**キーを押さなくても、伴奏を自動的に開始、停止することができます。これにより伴奏の開始と停止のタイミングを気にせずに演奏に専念することができます。

伴奏を自動的に開始する(シンクロ・スタート)

- 1 コントロール・パネルの**SYNCHRO START**キーを押して、LEDを点灯させます。
- 2 コードを弾いてください。自動的に伴奏を開始します。
- 3 コントロール・パネルの**START/STOP**キーを押して伴奏を停止します。

伴奏を自動的に開始、停止する(シンクロ・スタート、ストップ)

- 1 SYNCHRO STARTキーのLEDが点灯していることを確認します。
- 2 SYNCHRO STOPキーを押して、STARTキーとSTOPキーの両方のLEDを点灯させます。
- 3 コードを弾くと伴奏が自動的に開始されるので、鍵盤を弾いて演奏します。
- 4 鍵盤から手を放して演奏をやめると、自動的に伴奏を停止します。

伴奏を自動的に停止する(シンクロ・ストップ)

- 1 コントロール・パネルのSYNCHRO STARTキーを押して、LEDを消灯させます。
- 2 コントロール・パネルのSTART/STOPキーを押して伴奏を開始します。鍵盤を弾いて演奏します。
- 3 鍵盤から手を放して演奏をやめると、自動的に伴奏を停止します。

シンクロ・スタート/ストップ機能の解除

- コントロール・パネルのSYNCHRO STARTキーとSTOPキーを押して、両方のキーのLEDを消灯させます。

イントロの選択(Intro)

イントロの紹介です。Intro 1はコード展開のあるシーケンスです、イントロ演奏中に演奏者はコードを変更する必要がありません。Intro 2はコード展開の無いシーケンスとなっていて、演奏したコードに応じて伴奏が変化します。Intro 3は通常1小節のリズムによるカウント・インになっています。

スタイル・エレメント	内容
Intro 1	事前に記録されたコード・シーケンスとメロディーに基づくイントロです。
Intro 2	認識したコードに基づくイントロです。
Intro 3/Count In	1小節のカウント・インです。

- 1 コントロール・パネルのVARIATIONキーからイントロに続く部分(Aメロなど)で使用するバリエーションを選択します。選択すると、VARIATIONキーのLEDが点灯し、そのバリエーションが待機状態になります。

- 2 コントロール・パネルのスタイル・エリアのいずれかの**INTRO**キーを押します。そのキーのLEDが点灯して、伴奏の開始の準備が整ったことを知らせています。このとき、上記で選択した**VARIATION**キーのLEDが点滅に変わり、イントロ後にそのバリエーションが演奏される準備が整ったことを知らせます。
- 3 伴奏を開始させます。

フレーズ・メロディー (Verse)やサビ(Chorus)のバリエーションの選択

各スタイルには4種類のバリエーションがあり、それぞれを曲のAメロやBメロ、サビのように使用できます。各バリエーションは、少しずつ違った形になっています。Variation 1からVariation 4になるに従ってアレンジが複雑になります。通常**Variation 1**は初めのメロディー（Aメロ）、**Variation 4**は最後のサビ（ラスサビ）などに使います。

スタイル・エレメント	内容
Variation 1	メロディー (Verse)、つなぎ(Bridge)、サビ(Chorus)：簡素
Variation 2	メロディー (Verse)、つなぎ(Bridge)、サビ(Chorus)：やや複雑
Variation 3	メロディー (Verse)、つなぎ(Bridge)、サビ(Chorus)：複雑
Variation 4	メロディー (Verse)、つなぎ(Bridge)、サビ(Chorus)：高度で複雑

- イントロの演奏が終わると、選択していたバリエーションの演奏を開始します。このとき**VARIATION**キーのLEDが点灯します。
- イントロの演奏中にいずれかの**VARIATION**キーを押すと、次の小節からそのバリエーションを演奏します。

フィルの演奏(Fill)

フィルは、曲のセクション同士の間をスムーズにつなぐときに使われるフレーズです。本機は、バリエーションを選んだときに、フィルが自動的に選ばれるように設定することができます。

オート・フィル機能をオンにする

- コントロール・パネルの**AUTO FILL**キーを押してLEDを点灯させます。

バリエーション切り替え時の自動フィル再生

- いずれかの**VARIATION**キーを押します。自動的にフィルが選ばれて演奏されます。

オート・フィル機能をオフにする

- 機能をオフにするときは、AUTO FILLキーをもう一度押してLEDを消灯させます。

ブレークの選択(Break)

ブレークは、ソング演奏中にリズムやメロディーを一時的に止める(無音のフレーズを入れる)ことです。これによりソングの表現を豊かにすることができます。

スタイル・エレメント	内容
Break	1小節の無音区間

- バリエーションの終わりに近づいたときにBREAKキーを押すと、短いブレークが入ります。

エンディングの選択(Ending)

ソングのエンディングを選択します。Ending 1はコード展開やメロディーのあるシーケンスで、前もって用意されたコード進行とメロディーを再生します。Ending 2は演奏したコードに応じて伴奏が変化します。Ending 3は他とは違い、バリエーションが終わらなくても、選んだ瞬間に2小節のエンディングを再生して伴奏が停止します。

スタイル・エレメント	内容
Ending 1	コード展開のあるシーケンスで、エンディング演奏中に演奏者はコードを変更する必要がありません。
Ending 2	バリエーション1～4と同様に、コード展開の無いシーケンスで、演奏したコードに応じて伴奏が変化します。
Ending 3	2小節の短いもので、押すと短いエンディングを再生して停止します。

- バリエーションの演奏中にコントロール・パネルのスタイル・エリアのいずれかのENDINGキーを押すと、そのエンディングが「予約」されます。バリエーションの演奏が終わると、そのエンディングが演奏されます。

エンディングの演奏が終わると、自動的にスタイルの演奏は終わります。

ループ演奏

イントロやエンディングを既定のパターンより長く演奏するときは、ループ演奏させることができます。

ループ演奏設定

- ループ演奏するイントロ、ブレイク、またはエンディングのキーを2回押します。キーのLEDが点滅に変わり、パターンの繰り返しが始まります。

ループ演奏をやめる

次のどちらかの方法を選びます。

- 点滅しているLEDのキーをもう一度押します。
- 別のスタイル・エレメント（イントロ、バリエーションなど）を選びます。

キーを押している間ループ演奏を維持する

- ループ演奏を維持する間、イントロまたはエンディングのキーを押し続けます。キーから指を離すとループ演奏を終了します。
- オート・フィル機能がオンの場合は、ループ演奏するフィルに対応するバリエーションのキーを押し続けます。キーから指を離すとフィルのループ演奏を終了して、バリエーションの再生が始まります。

フェード・イン、アウト

曲の初めや終わりに、スムーズなフェード・インやフェード・アウトを付けることができます。

フェード・イン

- スタイルを演奏していない状態で、コントロール・パネルのFADE IN/OUTキーを押してLEDを点灯させます。スタイルをスタートさせるとスムーズなフェード・インで演奏が始まります。
- フェード・インが終わるとキーのLEDが消灯します。

フェード・アウト

- スタイルの演奏中にコントロール・パネルのFADE IN/OUTキーを押すと、スムーズなフェード・アウトをしてから演奏を停止します。

鍵盤演奏(キーボード・トラック)と伴奏の音量バランスの調節

伴奏に対してソロ演奏のように目立たせたり、バランスよく演奏したりするために、鍵盤演奏と伴奏の音量バランスを調節することができます。

鍵盤音色と伴奏のバランス調節

コントロール・パネルのBALANCEノブで、スタイル再生時の鍵盤演奏(キーボード・セット)と伴奏(スタイル)の音量バランスを調節します。

伴奏のパートを簡素にする

メイン・ページのVolumeパネルにあるPlay/Muteボタンを使って、伴奏パートのサウンドをグループ単位で有効(プレイ)にしたり、無効(ミュート)にしたりすることができます。たとえば、伴奏をドラムとベースのみにする場合などに便利です。



伴奏の音をドラムとパーカッションのみにする場合は、コントロール・パネルのACCOMP.キーを押してLEDを消灯させます。キーをもう一度押すとLEDが点灯してすべての伴奏パートのサウンドが復帰します。



マニュアル・ベース機能

自動伴奏とは無関係に、ベース・サウンドを左手で演奏することができます。

マニュアル・ベース機能をオンにする

- コントロール・パネルの**MANUAL BASS**キーを押してLEDを点灯させます。
このとき、ドラムとパーカッション以外の自動伴奏が停止し、鍵盤のロワー・パートでベース・サウンドを手動で演奏できます。
マニュアル・ベース機能がオンの場合、ベース・サウンドの音量は自動的に最大値にセットされます。

マニュアル・ベース機能をオフにする

- コントロール・パネルの**MANUAL BASS**キーを押してLEDを消灯させます。
マニュアル・ベース機能がオフの場合、ベース・サウンドの音量レベルは自動的にスタイルに設定されているオリジナルの値に戻ります。

09 スタイルのカスタマイズ

コード認識機能の設定

コード・スキャン(認識)エリアの設定

コードは左手でも両手でも演奏できます。本機の伴奏機能にコードを認識させるエリアは、演奏する曲や演奏スタイルの好みに応じて設定することができます。

本機の伴奏機能がコードを認識するエリアは、コントロール・パネルのSPLITのLEDの点灯状態によって変化します。

SPLIT LED	コードを弾くエリア(コード・スキャン・エリア)	
点灯	左手(鍵盤のロー・パート)	コード認識モードにより変化
消灯	両手(鍵盤の全域)	3音以上

左手パートを弾くとコード認識をするように設定する

- コントロール・パネルのSPLITキーを押してLEDを点灯させます。

鍵盤の全域でコード認識をするように設定する

- コントロール・パネルのSPLITキーを押してLEDを消灯させます。

このとき、3音以上を同時に弾くとコードとして認識されます。

コード認識をオフにする

- コントロール・パネルのACCOMP.キーを押してLEDを消灯させます。

このとき、ドラムとパーカッション・トラックはそのまま演奏を続けます。

コードとロワー・ノートの自動的ホールド(メモリー機能)。

演奏中に鍵盤から手を離してもコードとロワー・ノートをそのまま保持させることができます。

- コントロール・パネルの**MEMORY**キーを押してLEDを点灯させます。これで、弾いたコードとロワー・ノートがメモリーされます。
- コントロール・パネルの**MEMORY**キーを押してLEDを消灯させます。この場合は、コードを弾いて鍵盤から手を離すと、そのとき弾いていたコードがメモリーから消去されます(コードを保持しません)。

ルート音の認識(ベース・インバージョン)

本機の内蔵アレンジャーは、コード認識エリアで演奏されるすべての音程を分析してコードを認識し、それぞれの音程のコード内での役割(どの音がそのコードのルートなのか)を判断しています。ところがC/EやF/Cなど、そのときに弾いたコードの最低音をベースにすることができます。それがベース・インバージョン機能です。

この機能のオン、オフはディスプレイのSplit/パネルで行います。



ベース・インバージョンをオンにする

- 1 スタイル・プレイ・モードのメイン・ページを開き、**Split**タブをタッチして**Split**パネルの設定を確かめます。
- 2 **Bass Inversion**チェック・ボックスをタッチしてオンにします。

オンにしてコードを弾くと、その最低音が分数コードのルートとして認識されます。

ベース・インバージョンをオフにする

- 1 スタイル・プレイ・モードのメイン・ページを開き、**Split**タブをタッチして**Split**パネルの設定を確かめます。
- 2 **Bass Inversion**チェック・ボックスをタッチしてオフにします。

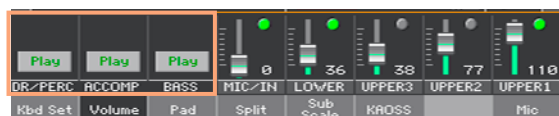
オフの場合、コードを弾いたときの最低音も他の音と一緒にスキャンされ、その音をルートに限定せずコードを判定します。

伴奏サウンドのミキシング

伴奏サウンドのグループ

伴奏サウンドはグループ化されています。これにより、ギターやストリングス・パートなどを個別にミュートするのではなく、伴奏（ACCOMP）グループとしてワンタッチでミュートすることができます。

伴奏サウンドのグループは、メイン・ページのVolumeタブをタッチしたときのVolume/パネルに表示されます。



伴奏パートのグループのミュート

グループの伴奏サウンドをオフにする(ミュート)

- ミュートにするグループがプレイになっている場合は、Play/Muteアイコンをタッチしてミュートにします。



グループの伴奏サウンドをオンにする(プレイ)

- プレイにするグループがミュートになっている場合は、Play/Muteアイコンをタッチしてプレイにします。



伴奏サウンドを個別にオン、オフにする

伴奏サウンドの中に音を出したくないサウンド・パートがある場合は、それらをミュートすることができます。たとえば、ライブで自分のピアノ・サウンドで演奏するため、伴奏の中に含まれるピアノ・パートの音をミュートする場合などです。

伴奏パート・ミキサー

- メイン・ページの**Volume**タブをタッチして、コントロール・パネルの**TRACK SELECT**キーを押して伴奏パートの**Volume**パネルに切り替えます。



アカンパニメント・パート

伴奏パートのプレイ/ミュート

- プレイまたはミュートするパートのプレイ (●) 、ミュート (■) アイコンをタッチして設定します。

メイン・ページに戻る

- 設定が終わったら、**TRACK SELECT**キーをもう一度押して、伴奏サウンドのグループの**Volume**パネルを表示したメイン・ページに戻ります。

10 コード・シーケンサー

コード・シーケンスの記録

コード・シーケンサーは、コード・シーケンス(コード進行)を記録し再生するものです。これにより繰り返し演奏されるコード・シーケンスの間は左手をコード演奏から解放でき、その分キーボード・ソロやDNC機能の選択などが簡単に行なえます。DNC機能については、43 ページの「アサイナブル・スイッチを使う」を参照してください。

コード・シーケンスはアレンジャーの演奏中に行えます。

- 1 コントロール・パネルのSTART/STOPキーを押してスタイルの再生を始めます。
- 2 コントロール・パネルのCHORD SEQUENCERキーを1秒ほど長押しして記録待機状態にします。このときLEDが赤く点灯します。



- 3 CHORD SEQUENCERキーをもう一度押すと、次の小節の先頭から記録が始まります。記録中はCHORD SEQUENCERキーのLEDが赤く点滅します。コードを演奏してコード・シーケンスを記録します。
- 4 コード演奏が終わったら、CHORD SEQUENCERキーを押して記録を終了します。このとき、CHORD SEQUENCERキーのLEDは緑の点灯に変わり、コード・シーケンスが記録できたことを表示します。

記録したコード・シーケンスは、次に新しくコード・シーケンスを記録するときや、別のスタイルやソングブック・エントリーを選択するまで、または本機の電源をオフにするまでメモリーされます。コード・シーケンスをロックした場合は、別のスタイルやソングブック・エントリーを選択しても消去されません。

コード・シーケンスの再生

記録したコード・シーケンスを再生します。記録したコード進行に従ってスタイルが演奏されます。

- 1 スタイルの演奏中にコントロール・パネルの**CHORD SEQUENCER**キーを押します。



CHORD SEQUENCERキーのLEDが緑で点滅します。このとき、コード・シーケンスは次の小節から再生をスタートします。

- 2 コード・シーケンスの再生中にソロ演奏をします。
コード・シーケンスがループ再生中は、左手でコードを演奏している場合と同様に、バリエーションを自由に選択できます。
- 3 **CHORD SEQUENCER**キーをもう一度押して、コード・シーケンスを停止します。
CHORD SEQUENCERキーのLEDが緑の点灯に変わります。

11 パッドの演奏

パッド・セットの選択

スタイルを選択することでパッドを選択する

- スタイルを選びます。すると、そのスタイルで設定されている4つのパッドが選択されます。

ソングブック・エントリーを選択することでパッドを選択する

- ソングブック・エントリーを選びます。すると、そのエントリーで設定されている4つのパッドが選択されます。

パッドとは

パッドは、PADSキーを押すとすぐに演奏される1トラックのみのヒットやシーケンスです。スタイルやMIDIソングの演奏時に1つのサウンドや短い周期で繰り返すシーケンスを演奏します。スタイル・プレイ・モードで使用する場合、認識されたコードによってパッドのシーケンスはトランスポートされます。

パッドの演奏

パッドの演奏と停止

本機は、コントロール・パネルのPADSキーを押すことで最大4つのパッドを同時に演奏できます。

パッドを演奏する

- コントロール・パネルのPADSキー（1つまたは複数）を押してパッドを演奏します。
- 鍵盤でコードを弾くと、フレーズを演奏するパッドはコードの調に合わせて演奏します。

1つのパッドを停止する

- 演奏しているパッドに対応するPADSキーを押すと、そのパッドが停止します。

すべてのパッドを同時に停止する

- コントロール・パネル、PADSのSTOPキーを押すと、すべてのパッドが停止します。

すべてのパッドとスタイルを同時に停止する

- コントロール・パネルのSTART/STOPキーを押します。または、いずれかのENDINGキーを押します。

すべてのパッドを停止し、ソングを再生する

- コントロール・パネルのPLAY/STOPキーを押してソングをスタートさせます。このとき、すべてのパッドが停止します。

テンポを変更する

スタイル・プレイ・モードでは、パッドはスタイルのテンポに従って演奏されます。スタイルのテンポを変更すると、それに応じてパッドのテンポも変更されます。

ソング・プレイ・モードでは、パッドは直前に演奏されたMIDIソングのテンポに従って演奏されます。パッドはMP3ソングの速度に同期しないため、MP3ソングを再生している場合は直前に演奏されたMIDIソングのテンポに従って演奏されません。

12 ソングの再生

ソングの選択

リストからソングを選ぶ

ソング・プレイ・モードに切り替える

コントロール・パネルのSONG PLAYキーを押します。



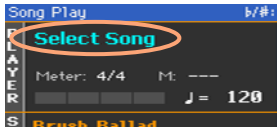
コントロール・パネルからソング選択ウィンドウを開く

- コントロール・パネルのPLAYERセクションにあるSELECTキーを押します。



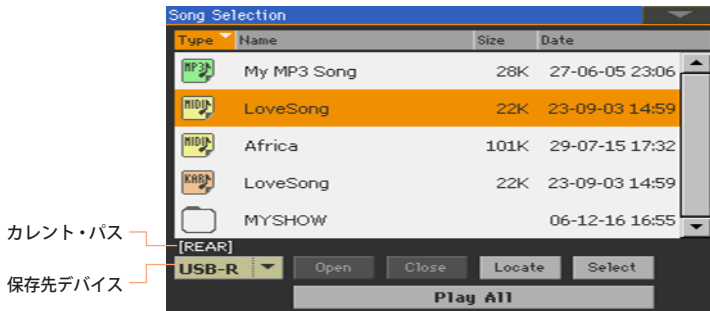
ディスプレイからソング選択ウィンドウを開く

- ディスプレイのソング名が表示されている部分をタッチします。



ソング・リストの確認

ソング選択ウィンドウ (Song Selection) で選択するファイルを見つけます。



- 保存先デバイス・メニューでデバイスを選択します。
選択するソングが外部のUSB機器に保存されている場合は、そのUSB機器をUSB HOST端子に接続してください。

デバイス	タイプ
DISK	内蔵メモリー
SD	内蔵microSDカード(市販)
USB	USB HOST端子に接続されたUSB機器(市販)

デバイスの実際の名前(ラベル)は、カレント・バスの角括弧内に表示されます。

- スクロール・バーまたはVALUEダイヤルを使って、リスト内のすべてのソングを確認できます(ダイヤルを使用する前に、任意のデバイスをタッチしてください)。
- Openボタンをタッチして、フォルダー/ディレクトリーを開くことができます。
- Closeボタンをタッチして、1つ上のフォルダー/ディレクトリーに戻ることができます。
- Locateボタンをタッチすると、選択したソングが含まれるフォルダー/ディレクトリーにジャンプすることができます。

異なるアルファベット順の名前が付いたソングにジャンプする

- 1 リストの一番上の名前のラベルをタッチします。
- 2 コントロール・パネルのSHIFTキーを押しながら、上下のスクロール・アローをタッチすると、現在表示されている部分から前、または次のアルファベット順の名前が付いたソングにジャンプできます。

リストの並び順を変える

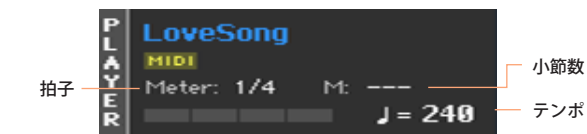
- リスト上段のラベル (Type、Name、Size、Date) の1つをタッチすることで、並び順の条件を変えることができます。
- それぞれのラベルをタッチするたびに、リストのファイルが昇順、降順に切り替わります。

ソングの選択

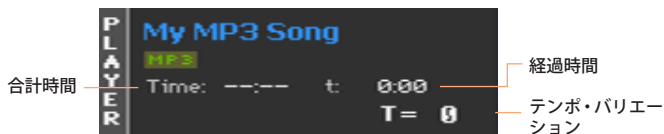
- 1 選択するソングの名前をタッチして選び反転表示にします。
- 2 Selectボタンをタッチします。すでにソングが再生されている場合は、再生が停止して新しいソングの再生を開始できる状態になります。ソング・プレイ・モードのメイン・ページに戻ります。

選んだソングがソング・エリアに表示されます。

- MIDIソングの場合:



- MP3ソングの場合:



MIDIソングとは

MIDIソングは、専門的にはスタンダードMIDIファイル(SMF)と呼ばれています。ファイル名の拡張子は「.mid」です。

スタンダードMIDIファイルは、どのメーカーとも共通性のある業界標準規格フォーマットで、本機の演奏やMIDIソングの録音に使用するネイティブ・ファイル・フォーマットです。

SMFの拡張フォーマットの拡張子が「.kar」の歌詞を含んだカラオケ・ファイルも使用できます。



MIDI
ソング



ディスク内の
MIDファイル



ディスク内の
KARファイル

MP3ソングとは

MP3ソングは、正式にはMPEG-1 Audio Layer-3と呼ばれるもので通常MP3と略されています。ファイル名の拡張子は「.mp3」です。これは音質の劣化を最小限に抑えつつ、ファイル容量を小さくするのに適した圧縮オーディオ・ファイルです。一般的に高いレート(bit/s)のMP3ファイルは、非圧縮オーディオ・ファイルとの音質の差が少なく、聞き分けるのは難しいものです。本機はMP3ファイルを再生したり、録音することができます。



MP3
ソング



ディスク内の
MP3ファイル

ソングの再生

ソングの再生コントロール

ソングの再生コントロールは、コントロール・パネルの**PLAYER**セクションで行います。



ソングの再生を開始する

- **PLAY/STOP (▶/■)** キーを押します。このときキーのLEDが点灯します。
ソングの再生中は、現在の位置がディスプレイのインジケーターに表示されます。

ソングの早送り (FF)

- **早送り (▶▶)** キーを1回押すと、そのとき再生していたソングの1小節後に移動 (MIDI ソング)、または1秒後に移動します (MP3ソング)。
- **早送り (▶▶)** キーを長押しすると、キーを離すまで早送りの動作を行います。再生したいところでキーを離します。

ソングの早戻し (REW)

- **早戻し (◀◀)** キーを1回押すと、そのとき再生していたソングの1小節前に移動 (MIDI ソング)、または1秒前に移動します (MP3ソング)。
- **早戻し (◀◀)** キーを長押しすると、キーを離すまで早戻しの動作を行います。再生したいところでキーを離します。

再生の一時停止と再開始

- ソングの再生中に**PLAY/STOP (▶/■)** キーを押すと、その位置で停止します。このときキーのLEDが消灯します。
- もう一度**PLAY/STOP (▶/■)** キーを押すと、停止していた位置から再生を再開始します。このときキーのLEDが再点灯します。

ソングの最初に戻って再生を止める

- 再生を止めてソングの初めに戻すときは、**ホーム (◀)** キーを押します。このときキーのLEDが消灯します。

フェード・イン、アウト

曲の初めや終わりにスムーズなフェード・インやフェード・アウトを付けることができます。

フェード・イン

- ソングが停止している状態でコントロール・パネルの**FADE IN/OUT**キーを押すと、キーのLEDが点灯してスムーズなフェード・インでソングが始まります。

ソングが始まって音量が最大になるとフェード・インが終わり、キーのLEDが消灯します。

フェード・アウト

- ソングの演奏中にコントロール・パネルの**FADE IN/OUT**キーを押すと、スムーズなフェード・アウトをしてから停止します。

ソングに合わせて演奏する

鍵盤を演奏する

ソングに合わせて演奏する

- ソングの再生中に鍵盤で演奏します。

キーボード・セットから別のサウンドを選択する



- コントロール・パネルのKEYBOARD SET LIBRARYセクションから、いずれかのキーボード・セットを選択します。または、ディスプレイのメイン・ページのKBDエリアをタッチして、キーボード・セットを選択します。

スタイルやソングブック・エントリーから別のサウンドを選択する

- 直近に選択したスタイルや、ソングブック・エントリーからのキーボード・セットを選択する場合は、コントロール・パネルのKEYBOARD SETセクションからいずれかのキーボード・セットを選択します。または、メイン・ページのキーボード・セット・パネルから選択します。

メロディをミュートする

あなたがライブで演奏したり歌ったりするときに、サウンドをミュートすることができます。これにより、内蔵されたサウンドと、あなたの演奏や歌が重なることはありません。

- 1 コントロール・パネルのSONG PLAYキーを押してから、Volumeタブをタッチします。
- 2 TRACK SELECTキーを押して、サウンドを表示させます。
- 3 ミュートするサウンドのプレイ・アイコン()をタッチします。アイコンがミュート・アイコン()に変わります。

プレイ、ミュートの状態を保存する

ソングのプレイ、ミュートの状態を、すべてのMIDIソングに対して設定するときは、それをメモリに保存します。

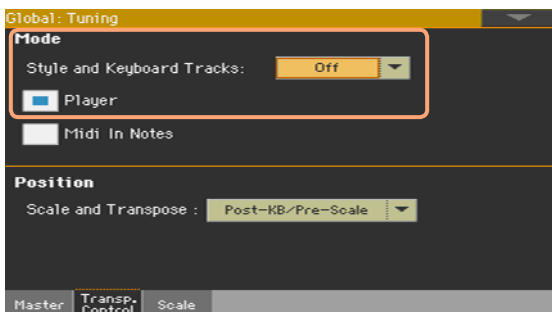
- Global > Mode Preferences > Song & Sequencerページを開き、ページ・メニューからWrite Song Play Track & FXコマンドを選びます。

演奏しやすい調にソングをトランスポーズ(移調)する

鍵盤をトランスポーズさせずに、ソングをトランスポーズして演奏しやすい調にすることができます。

プレーヤーのみにトランスポーズを有効にする

- 1 Global > Tuning > Transpose Controlページを開きます。
- 2 プレーヤーのトランスポーズをオンにし、スタイルとキーボード・トラックのトランスポーズをオフにします。



曲をトランスポーズする

- コントロール・パネルのTRANPOSEキーを押します。

鍵盤演奏(キーボード・トラック)とソング再生(ソング・トラック)の音量バランスを調節する

バックグラウンド再生に対してソロ演奏のように目立たせたり、バランスよく演奏したりするために、鍵盤演奏とソング再生の音量バランスを調節することができます。

演奏と再生の音量バランスを調整する

- BALANCEノブで、ソング再生時の鍵盤演奏 (KBD) とソング (SONG) の音量バランスを調節します。

すべてのMP3ソングの音量を設定する

MIDIソングやスタイルに対するMP3ソングの音量バランスを調節できます。

- 1 Global > Audio & Video > MP3/Speakersページを開きます。
- 2 MP3 PlayerエリアのVolumeパラメーターでMP3プレーヤーの最大音量を設定します。

Volume	意味
0…100	MP3プレーヤーの最大音量 (%)

フォルダー内のすべてのソングの再生

ワンタッチでフォルダー内のすべてのソングを再生することができます。

コントロール・パネルからソング選択ウィンドウを開く

- SELECTキーを押します。

ディスプレイからソング選択ウィンドウを開く

- ディスプレイに表示されているリストのソング名をタッチします。



再生するソングを含んだフォルダーの選択

- 1 再生するソングを含むフォルダーを閲覧して見つけたら、そのフォルダーを開きます。
- 2 Play Allボタンをタッチして、フォルダー内のソングをすべて選択します。
このとき、ジュークボックス・ファイルが自動的に生成され、プレーヤーに割り当てられます。なお再生するソングの順番はリストの表示順になります。

リストのソング再生

- 3 開始、停止はコントロール・パネルのPLAY/STOP (▶/■) キーを押します。
- 4 プレーヤー・セクションのキーを使ってソングの再生、一時停止、停止、早送り、早戻しの操作をします。

ソング間の移動

- リストの次のソングにジャンプするときは、コントロール・パネルのSHIFTキーを押しながら早送り(▶▶)キーを押します。
- リストの前のソングにジャンプするときは、コントロール・パネルのSHIFTキーを押しながら早戻し(◀◀)キーを押します。
- ホーム(◀)キーを押すと現在再生中のソングの先頭に戻ります。

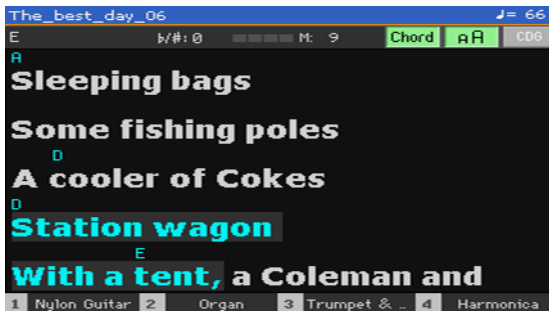
13 歌詞、コード、楽譜、マーカー

ソングに含まれている歌詞とコードの表示

歌詞とコードの表示

歌詞ページを開く

- コントロール・パネルのLYRICSキーを押します。歌詞ページが表示され、歌詞が表示されます。



歌詞の表示

- MIDIソングやMP3ファイルに歌詞データが内蔵されている場合は、それらを再生すると歌詞がディスプレイに自動的にスクロール表示されます。歌詞はソングの進行に合わせて反転表示になります。

歌詞ページを閉じる

- コントロール・パネルのLYRICSキー、またはEXITキーを押して歌詞ページを閉じます。

テキスト・サイズの調節

表示される文字の大きさを選択できます。

- 歌詞ページのAボタンをタッチすると文字の大きさが変わります。

MIDIソングのコード・ネームの表示

歌詞イベントに含まれているコード・ネームの表示、非表示ができます。

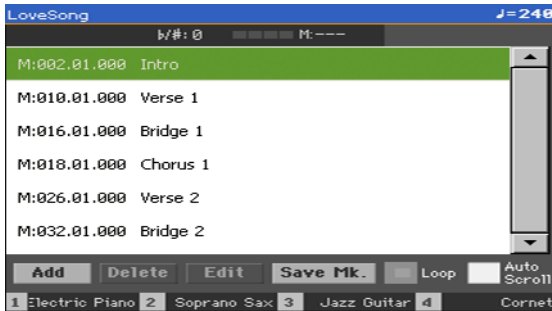
- 歌詞ページのChordボタンがタッチ状態のときは、コード・ネームが表示されます。コード・ネームはソングの進行に合わせて歌詞の上に表示されます。
- 歌詞ページのChordボタンをタッチしていない状態のときは、コード・ネームが表示されません。

マーカーを使ったソング内の移動

本機はMIDIソングに含まれるソング・マーカー・イベントを読み取ることができます。それらはマーカー・ページに表示されます。

マーカー・ページを開く

- ソング・プレイ・モードに入り、**MARKER**キーを押して、マーカー・ページを表示します。



マーカーへの移動

- 1 **PLAY/STOP** (▶/■) キーを押してソングの再生を開始します。
ソングを再生しなくてもマーカー・ポイントへ移動できます。
- 2 マーカー・リストに表示されているマーカー・ポイントのうち、ジャンプするポイントをタッチします。するとソングの演奏中は次の小節からタッチしたマーカー・ポイントに移動します。

マーカー・リストの自動スクロール

Auto Scrollチェック・ボックスにチェックを入れておくと、マーカー・リストが曲の進行に合わせて自動的にスクロールします。ソングの演奏中にリアルタイムでジャンプさせたいマーカー・ポイントを指定する際に便利です。

繰り返し演奏の先頭をマーク

マーカーを使って練習する区間をリピートさせることができます。

- 1 ソングの再生を開始します。
- 2 練習する区間の先頭に曲が差し掛かったら、**Add**ボタンをタッチして最初のマーカー・ポイントを作ります。
通常、マーカーは実際の練習開始位置の1、2小節前に設定します。
- 3 練習する区間の終点に曲が差し掛かったら、**Add**ボタンをタッチして2個目のマーカー・ポイントを作ります。
- 4 最初に作ったマーカー・ポイントを選択し、次に**Loop**チェックボックスをリピート(ループ)にして最初と2個目のマーカー間をループさせます。
- 5 必要のなくなったマーカー・ポイントは削除してください。違うソングを選んだり電源を切ったりすると、保存していないマーカーは自動的に削除されます。

楽譜の表示

楽譜の作成と表示

楽譜の作成

- 1 ソング・プレイ・モードでMIDIソングを選んで再生します。
- 2 コントロール・パネルのSCOREキーを押して楽譜ページを表示します。選択したトラックの楽譜が生成されます。

トラックの内容によって音符やコードが表示されます。

このスクリーンショットは、音楽制作ソフトウェアの楽譜表示画面を示しています。画面の上部には「LoveSong」という曲名とテンポ「J=240」が表示されています。中央には2つの楽譜の五線が描かれ、音符とコード（Gsus/D, D, Bm9, Bm7）が配置されています。歌詞「Sorry's hardly said」および「Don't try Sliding tables instead」が音符の下に記されています。画面下部には「Lyrics」「Chord」「Note」「Treble」「Play」「Trk 1」などの操作ボタンがあります。赤い線と丸は、各要素への注釈を示しています。

異なるトラックを選ぶ

- ディスプレイ右下のポップアップ・メニューから、表示するトラックを選びます。一般的に、メロディーはトラック4に割り当てられています。

音部記号を選ぶ

- ディスプレイ下のポップアップ・メニューから、音部記号を選びます。通常、正しい音部記号がスコア・ジェネレーターで自動的に割り当てられます。

音部記号名	意味
Treble	一般的なト音記号です。
Treble+8	ト音記号で1オクターブ上にトランスポーズした状態です。
Treble-8	ト音記号で1オクターブ下にトランスポーズした状態です。
Bass	一般的なヘ音記号です
Bass-8	ヘ音記号で1オクターブ下にトランスポーズした状態です。

楽譜ページを終了する

- 楽譜ページを終了するには、**SCORE**キーまたは**EXIT**キーを押します。

見やすい楽譜表示

本機では楽譜を見やすくするために重なっている音の非表示、クオンタイズ、シンコペーション、キーや音部の判定などの様々な処理を自動的に行うスコア・ジェネレーターを搭載しています。このためクオンタイズを行っていないトラックでも非常に見やすい楽譜として表示されます。

なお、選択したソングのマスター・トラックの冒頭部 (001.01.000) にキー・サイン (Key Signature) イベントがある場合は、それに従って調号 (楽譜の先頭にある # や ♭) も表示されます。

ソングの位置表示

いつでも下記の表示を見ることで、楽譜のどの位置が再生されているのかを確認できます。

- 赤い垂直のバー表示は、現在演奏中の五線を示しています。
- 赤い三角表示は、現在の演奏位置を示しています。

歌詞、コード・ネーム、ノート・ネームの表示

歌詞の表示

- ディスプレイの表示オプションの**Lyrics**ボタンをタッチして、歌詞 (が含まれている場合) の表示、非表示を選びます。

コードの表示

- ディスプレイの表示オプションの**Chord**ボタンをタッチして、コード・ネーム (が含まれている場合)の表示、非表示を選びます。

ノート・ネームの表示

- ディスプレイの表示オプションの**Note**ボタンをタッチして、ノート・ネームの表示、非表示を選びます

コード、ノート・ネームの言語選択

コード・ネーム、ノート・ネームは、本機全体の表示言語選択に従って、英語式(C、D、E…)またはイタリア語式(Do、Re、Mi…)のどちらかで表示されます。

- **Global > General Controls > Interface**ページを開き、**Language**パラメーターで表示言語を選択します。

選択したトラックをミュートする

選択したトラックのミュート

- 選択したトラックの**Play**または**Mute** ( ) ボタンをタッチして、選択トラックの発音、ミュートを選びます。

ライブなどで自分で演奏したり歌ったりするトラックをミュートします。これにより本機から流れる演奏と重複するのを防ぐことができます。

プレイ/ミュート設定の保存

各ソング・トラックのプレイ/ミュート設定をすべてのMIDIソングで共有する場合は、メモリーに保存します。

- **Global > Mode Preferences > Song & Sequencer**ページを開き、ページ・メニューから**Write Song Play Track & FX**コマンドを選びます。

楽譜とトランスポーズ

楽譜のページではMIDIのノート情報に基づいて表示します。このため**TRANPOSE**キーやトラックのトランスポーズを使用しても、楽譜表示には反映されません。

14 KAOSSEフェクトを使う

KAOSSEページ

KAOSSEフェクトとは

KAOSSEは、MIDIイベントのリアルタイム生成や複数のパラメーターを、1つのコントローラーで同時にコントロールすることができる、コルグ独自の技術です。本機では、音楽を大胆に変化させたり、クリエイティブなフェクトやインタラクティブな「リキッド・ミキシング」などが行えます。

たとえば、バリエーション間やドラムキット間のスムーズなモーフィングをしたり、常に更新されていくようなアレンジを作り出したりすることができます。また、リズムを変化させたり、ピッチを展開させたり、音数を増減させたりして、録音済みの音楽に即興的要素をプラスすることも可能です。パート数を少なめにしてソロ・プレイヤーを引き立たせたり、観客とのライブなやり取りにも使えます。

さらに、DJ風の破壊的なフェクトをかけることもできます。ほかにもKAOSSEを高機能のアルベジエーターとして使用したり、ビンテージ風のテープ・ディレイ・フェクトとして使ったりすることもできます。

KAOSSEフェクトにはいくつかのプリセットがあり、複数のパラメーターをKAOSSEパッド(XYパッド)でコントロールします。

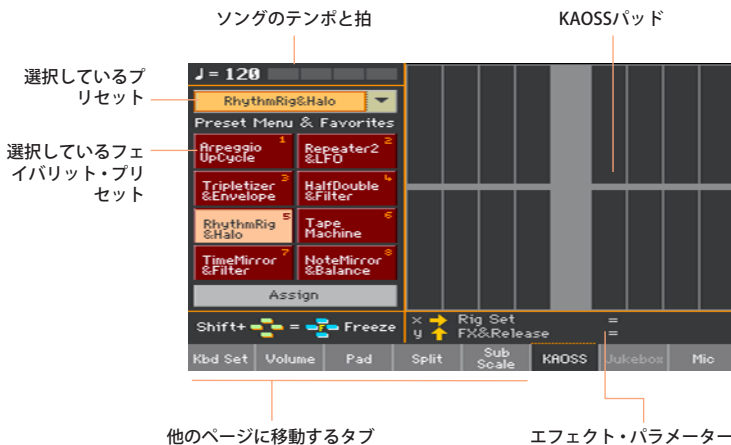
KAOSSページに入る

スタイル・プレイ・モードまたはソング・プレイ・モードのメイン・ページを開き、KAOSSタブをタッチしてKAOSSページに入ります。

- スタイル・プレイ・モードの場合：



- ソング・プレイ・モードの場合：



KAOSSプリセットの選択

KAOSSプリセットまたはフェイバリット・プリセットの選択

本機は一連のKAOSSプリセットを内蔵しています。KAOSSプリセットはスタイル・プレイ・モード、ソング・プレイ・モードでそれぞれ別のものを選択できます。

ライブラリーからKAOSSプリセットを選ぶ

- 画面左上のポップアップ・メニューを使い、全プリセットが入っているライブラリーからプリセットを1つ選びます。



専用ボタンからKAOSSフェイバリット・プリセットを選ぶ

- Favorite Presetsボタンからいずれかをタッチして選びます。



各モードで選択されたプリセットは、次に選択されるまでその状態を維持します。

KAOSSプリセットをフェイバリット・プリセット・ボタンに割り当てる

ライブラリーに入っているKAOSSプリセットは、**Favorite Preset**ボタンに割り当てることができます。この方法でよく使うプリセットを選びやすくなることができます。

スタイル・プレイ・モード、ソング・プレイ・モードでフェイバリットの構成は変化します。

- 1 画面左上のポップアップ・メニューでKAOSSプリセットを選びます。
- 2 **Favorite Presets**ボタンの下にある**Assign**ボタンをタッチします。
- 3 **Select Destination**ダイアログ・ボックスが表示されますので、割り当てるボタンをタッチします。



KAOSSエフェクトの使用

KAOSSエフェクトを使うには、まずスタイルやソングをスタートさせるか、鍵盤で演奏しながらKAOSSパッド・エリアで指をスライドさせて、音楽や音色に変化を付けます。

元の音楽を用意する

トランスフォーメーションとアルペジエーター

この2つはKAOSSエフェクトの主要なカテゴリーです。

- トランスフォーメーション・エフェクトは、アレンジャー（スタイル）またはプレーヤー（ソング）が生成して、新たな音楽を作り出すエフェクトです。
- アルペジエーター・エフェクトは、直近に認識されたコードまたは鍵盤のアップパー・パートでの演奏からアルペジオを生成するエフェクトです。ARPEGGから始まるプリセット名がこのタイプです。

元になる音楽を選ぶ

- スタイル・プレイ・モードまたはソング・プレイ・モードに入り、スタイルまたはMIDIソングを選びます。
- アルペジオを演奏する場合は、アルペジオ演奏するサウンドを含んだキーボード・セットを選びます。

KAOSSプリセットを選ぶ

- 上述の方法でKAOSSプリセットまたはフェイバリット・プリセットを選びます。
- アルペジオ演奏をする場合はARPEGGから始まるプリセット名を選びます。

スタイルまたはソングをスタートする

- スタイル・プレイ・モードまたはソング・プレイ・モードに入り、通常のようにスタイルやソングをスタートさせます。
- アルペジエーター・プリセットを選択している場合は、鍵盤のアップパー・パートで演奏したり、パッドをタッチします。スタイルやソングをスタートさせる必要はありません。

KAOSSパッドを使用する

X/Y軸に割り当てられているエフェクト・パラメーターをチェックする

- エフェクト・パラメーター名はパッドの下に表示されます。



軸	意味
X	指を左右にスライドさせたときに変化するパラメーター
Y	指を上下にスライドさせたときに変化するパラメーター

パラメーターの値を変化させる

- KAOSSパッドにタッチしたまま指をスライドさせると、パラメーターの値が変化します。



選択したプリセットによってKAOSSパッド上のグリッドが変化します。パッド上の各セルがパラメーターの値（ステップと呼ぶこともあります）に対応します。明るいグレーのセル領域はプリセットのパラメーターの初期値です。

パッド上にグリッドが表示されない場合、そのプリセットのパラメーターは階段状に変化せず連続的に変化します。

- パッドから指を離すとパラメーターの初期値がリセットされます。

パラメーターの値をフリーズ(固定)させる

次の手順のいずれかを行います。

- コントロール・パネルの**SHIFT**キーを押しながらKAOSSパッドをタッチし、**SHIFT**キーを離してから指をパッドから離します。

引き続きKAOSSパッドを操作することも、KAOSSパッドを触らずパラメーターの値をそのままにしておくこともできます。

- コントロール・パネルの**SHIFT**キーを押しながらKAOSSパッドにタッチし、指をパッドから離してから**SHIFT**キーを離します。

このときKAOSSパッドのパラメーターの値は指を離れた位置で固定され、スタイルまたはソングは、そのパラメーターの値に従って演奏を続けます。

15 ファイルやその他のアイテムの検索

サーチ機能

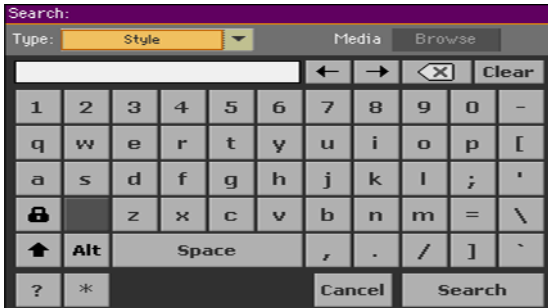
サーチ機能の使い方

各モードでサーチ機能を使うことによって、様々なタイプのデータを検索することができます。たとえば、メディア・モードではファイルのみを検索でき、スタイル・プレイ・モードやソング・プレイ・モードではスタイルやソング、歌詞などを検索できます。

検索機能は、キーボード・セット、サウンド、スタイル、パッド、ボイス/ギター・プリセット、サンプル、マルチサンプル、ドラム・サンプルに対して有効です。また、ファイル・セレクトアが開いているときにも有効です。表示しているページによっては、検索する対称がないためにサーチ機能が使用できないページもあります(たとえば、グローバル・モードの各ページなど)。

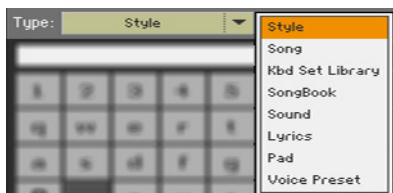
SEARCHウィンドウを表示する

- コントロール・パネルのSEARCHキー (🔍)を押して、SEARCHウィンドウを開きます。



検索するファイル・タイプを選ぶ

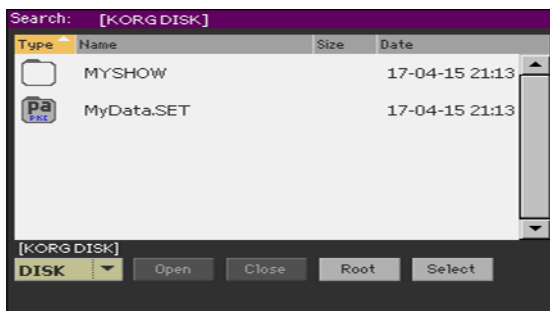
- 必要に応じて、**Type**のポップアップ・メニューをタッチし、検索するデータのタイプを選択します。



記憶デバイスやフォルダーを選ぶ

ファイルやソング、歌詞を検索する場合は、**Browse**ボタンが使用でき、記憶デバイスやフォルダー内のファイルを検索できます。選択するタイプがファイルやソング、歌詞の場合は、**Browse**ボタンが有効になり使用することができます。

- 1 **Browse**ボタンをタッチして、**ファイル・セクター**を開きます。



- 2 **Device**ポップアップ・メニューから検索するための保存先デバイスを選択します。**Open**と**Close**ボタンを使って選んだフォルダーを開閉します。**Root**ボタンはタッチすると、デバイスのルートのトップ・レベルに移動します。
- 3 探しているファイルを含むフォルダーが見つかったら、そのフォルダーをタッチしてから**Select**ボタンをタッチして、**ファイル・セクター**を閉じます。選択したフォルダーの名前が、**SEARCH**ウィンドウのタイトル・バーに表示されます。

検索ワードを入力して検索を始める

- 1 検索するワードを入力します。大文字、小文字は、検索には影響ありません（「LOVE」も「Love」も「love」も検索上は同一です）。

The screenshot shows a search interface with a purple header bar labeled 'Search:'. Below the header, there are tabs for 'Type:' (Style), 'Media', and 'Browse'. A search input field contains the text 'Love'. To the right of the input field are navigation arrows, a magnifying glass icon, and a 'Clear' button. Below the input field is a virtual keyboard with letters, numbers, and symbols. At the bottom of the keyboard are 'Cancel' and 'Search' buttons.

- 2 検索ワードを入力し終えたら、**Search**ボタンをタッチします。検索ワードに該当したファイルがリスト表示されます。

The screenshot shows the search results after pressing the 'Search' button. The 'Search' button has been replaced by a 'Stop' button. Below the input field, there is a table with two columns: 'Name' and 'Bank and Position'. The table lists three results: 'Love Disco' (Fty04: Dance - 26), 'Love Movie' (Fty11: Movie & Show - 17), and 'Love Ballad' (Fty11: Movie & Show - 19). At the bottom of the screen, it says 'Results Found: 3' and there are 'Info' and 'Select' buttons.

Name	Bank and Position
Love Disco	Fty04: Dance - 26
Love Movie	Fty11: Movie & Show - 17
Love Ballad	Fty11: Movie & Show - 19

検索が完了するのに必要な時間は、デバイスのサイズやファイルの数によります。1度に検索できる項目は1つだけです。現在の検索が完了するのを待つか、**Stop**ボタンをタッチして検索を停止してから、新たな検索を行ってください。

検索の停止

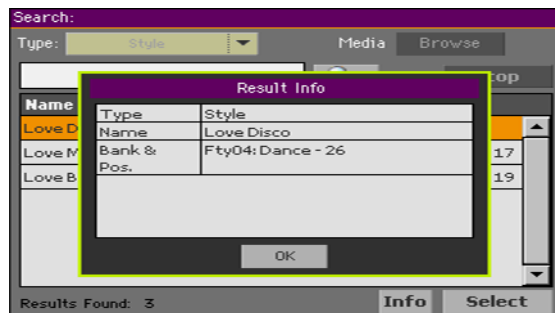
- **Search**ボタンをタッチすると、Searchボタンが**Stop**ボタンに変わります。必要ときに、このボタンをタッチして検索を停止します。ボタンの名前が**Search**に戻ります。新しい検索を実行するまで、検索されたすべてのアイテムは、表示のままになります。

SEARCHウィンドウを閉じて、引き続き検索作業を行う

- ディスプレイのCancelボタンかコントロール・パネルのSEARCHキー（🔍）やEXITキーを押してこの画面から抜けて、他の操作を行うことができます。検索はバックグラウンドで継続されます。

アイテム情報を見る

- リスト表示されたアイテムをタッチして選択し、Infoボタンをタッチするとそのアイテムの情報が表示されます。



OKボタンをタッチするとResult Infoダイアログ・ボックスが閉じます。

検索の再開

- サーチ機能のメイン・ページに戻って、もう一度検索するときは、サーチ・アイコン（🔍）をタッチします。

アイテムの選択

- 1 検索の結果、必要なアイテムが見つかったら、その名前をタッチし、Selectボタンをタッチします。
- 2 Searchウィンドウはコントロール・パネルのEXITキーを押すと閉じます。

パート III: ソングブック

16 ソングブックを使う

ソングブックのエントリーを選択する

ソングブックとは

常に1つのソングからスタートする、それがソングブックの背景にある基本的な考えです。ソングブックからエントリーを選ぶことで、そのソングのテンプレートを選びます。そこには必要なものすべての情報(スタイル、ソング、サウンド、ボイスまたはギター・エフェクト歌詞、キー、テンポ)が含まれ、それをワンタッチで選ぶことができます。

言い換えれば、ソングブックはスタイルやソングを整理し、簡単に検索して選択することができるデータベースです。このデータベースの各エントリーには、指定したソングのアーティスト、タイトル、ジャンル、オリジナル・キー、拍子(メーター)など多くの情報が含まれています。エントリーのいずれかを選択すると、スタイル・プレイ・モードやソング・プレイ・モードとともに関連するスタイルやスタンダードMIDIファイル、MP3ファイルが呼び出されます。また、マスター・トランスポーズも呼び出され、情報がある場合にはボイスまたはギター・プリセットも呼び出されます。

さらにライブ演奏に便利な4種類のパッドやキーボード・セットも、ソングブックの各エントリー別に設定することができます。また、スタンダードMIDIファイルやMP3ファイルに歌詞イベントが入っていない場合は、エントリーとテキスト・ファイルをリンクさせて歌詞イベントの代わりに利用したり、スタイルをバックに演奏したりすることも可能です。

ソングブックにエントリーを追加したり、既存のエントリーをエディットしたりすることもできます。本機には数百のエントリーがすでに収録されていますが、それぞれのライブなどの演奏内容に合った選曲など、さまざまなカスタム・セット・リストを作成し、コントロール・パネルから簡単に呼び出すことができます。

ブック・リストからソングブック・エントリーを選ぶ

本機には最初から大容量のデータベースが内蔵されています。このデータベースを見ながらソングブック・エントリーを選ぶことができます。

ソングブック・エントリーを選ぶ

- 1 スタイル・プレイ・モードまたはソング・プレイ・モードで、コントロール・パネルのSONG BOOKキーを押してソングブック・ページを開きます。



- 2 エントリーを確認します。

スクロール・バーまたはコントロール・パネルのVALUEダイヤルを使って、リスト内をブラウズできます。SHIFTキーを押しながらスクロール・バーの上下にある矢印ボタンをタッチすると、表示されているリストの前後のアルファベット順にあるリストを表示させることができます。

- 3 必要なエントリーが見つかったら、それをタッチしてアレンジャーまたはプレーヤーに割り当てます。

エントリーを選択すると、そのエントリーが反転表示になり、エントリー名が画面のタイトル・バーの下 (N:) に表示され、右側に関連するスタイル名またはソング名が表示されます。






このとき、関連するスタイルやソングが呼び出されます。

また、関連するパッドやキーボード・セットも呼び出され、キーボード・セット1が選択されます。エントリーにリンクされているテキスト・ファイルがある場合は歌詞ページに表示され、ボイス/ギター・プリセットがある場合はそれも呼び出されます。

- 4 コントロール・パネルのSTART/STOPキーやPLAY/STOP(▶/■)キーを押して、選択されたスタイルやソングの演奏開始、停止を行います。

エントリー・タイプの識別

タイプ列のアイコンでエントリーの種類が識別できます。

タイプ	意味
	スタイルがベースのエントリー。スタイルが選択されスタイル・プレイ・モードに切り替わります。
	MIDIソングがベースのエントリー。ソングが選択されソング・プレイ・モードに切り替わります。
	MP3ソングがベースのエントリー。ソングが選択されソング・プレイ・モードに切り替わります。

ラベル/コラムのソート

リストの最上段には列(コラム)ごとにデータの種類(タイプ、名前、ジャンル、キー、テンポ、拍子など)を表すラベルが並んでいます。ラベルをタッチすると、そのラベルのデータ種類の名前順にソート(並べ替え)することができます。

リストの並びを変更する

- リスト上段のラベル(Type、Name、Genre、Key、Bpm、Meterなど)をタッチすることで、エントリーの並び順を変えることができます。
- それぞれのラベルをタッチするたびに、リストの表示が昇順、降順に切り替わります。

フィルターを使ったエントリーの検索

特定のアーティストやジャンル、その他のカテゴリーを探すときは、フィルター機能を使って検索することをお勧めします。ソングブックのエントリーはコントロール・パネルのSEARCHキーで検索することもできますが、サーチ機能で検索できるのは名前のみです。フィルターを使用すれば同時に複数の項目をより精密に検索することができます。

Filterダイアログ・ボックスを開く

- SongBook > Bookでソングブック・ページのFilter…ボタンをタッチしてFilterダイアログ・ボックスを開きます。

フィルター条件をエディットしてフィルターを有効にする

- 1 検索する項目の横にあるテキスト・エディット・ボタン (T) をタッチして、テキスト入力画面を表示し、検索する文字列を入力します。

例えば、タイトルに「Love」という言葉を含むすべてのソングを探してみます。そのときは、Name: の横のテキスト・エディット・ボタンをタッチして「Love」という言葉を入力します。大文字、小文字は、検索には影響ありません。

名前の入力が終わったら、下にあるOKボタンをタッチして、テキスト入力画面を閉じます。

- 2 他の各項目にも検索ワードを入力します。
- 3 拍子やテンポの範囲を検索項目として設定することもできます。

不要なフィルター項目を削除する

- Clearボタンをタッチすると、検索項目を削除したり初期値に戻したりすることができます。
- Clear Allボタンをタッチすると、すべての検索項目をリセットできます。

フィルターの確認

- フィルター項目の入力が終わったら、OKボタンをタッチしてFilterダイアログ・ボックスを閉じ、Bookページに戻ります。

Filteredのチェック・ボックスには自動的にチェックが付き、フィルター機能が有効になったことを示します。リストには検索条件に合ったエントリーだけが表示されます。



フィルター条件を無効にしてすべてのエントリーを表示させる

- Filteredのチェックボックスをタッチしてチェックを外します。

ソングブックのエントリー情報を確認

ソングブックのエントリーでは、選択したエントリーの名前、関連するリソース、ソングブックのソング数の合計、ブック内のフィルタリングされたエントリーの数、利用可能なカスタム・リストの数、および現在のリストのソング数を確認できます。

- 1 ソングブックからエントリーをタッチして選びます。
- 2 InfoタブをタッチしてInfoページを表示します。

スタイルがベースのエントリーの場合：

選択している エントリー	SongBook h/#: 0
関連するスタイル	N: A nite in Tunisi
	Style: Afro-Cuban Jazz
	Songs: 384
	Songs after filtering: 384
	Set Lists: 10
	Songs in current Set List: 77
	Book Write Tags Controls Lyrics Set List Info

ソングがベースのエントリーの場合：

選択している エントリー	SongBook h/#: 0
関連するスタイル	N: LoveSong
	Player: LoveSong
	Songs: 519
	Songs after filtering: 519
	Set Lists: 6
	Songs in current Set List: 25
	Book Write Tags Controls Lyrics Set List Info

現在選択しているエントリー（N:）を示します。表示が空白（---）のときは、選択した最新のエントリーがエディットされているか、エントリーをまだ選択していない状態です。

セット・リスト

セット・リストとは

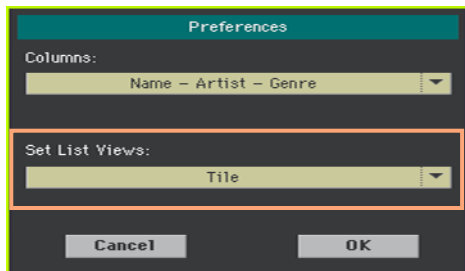
セット・リストとは、全ソングブック・リストからエントリーを抜き出して作成したリストのことです。これにより、好みの曲やライブごとの演奏曲を集めたコンパクトでオリジナリティのあるリストを作ることができます。なお本機にはすぐに使えるいくつかのサンプル・リストを用意しています。

表示形式の選択

セット・リストの表示形式にはタイトル・ビューとリスト・ビューの2種類があります。タイトル・ビューではエントリーがタイル状に表示され、コントロール・パネルのSET LISTキーに割り当てられます。リスト・ビューでは、すべてのエントリーがリスト表示されます。

表示形式を切り替える

- 1 ソングブック・ページを開き、ページ・メニューからPreferencesコマンドを選んでPreferencesダイアログ・ボックスを開きます。



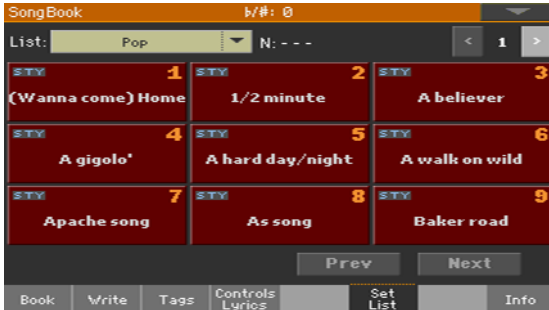
- 2 Set List Viewsメニューで表示形式をタイル・ビューまたはリスト・ビューに切り替えます。
- 3 OKボタンをタッチしてダイアログ・ボックスを閉じます。

タイル・ビューからセット・リストを演奏する

タイル・ビューでは選択したセット・リストをコントロール・パネルのSET LISTキーに割り当てられた状態で表示します。表示されている各タイルの番号はコントロール・パネルの各キーの番号に対応しています。

セット・リストを選ぶ

- 1 ソング・ブック・ページのSET LISTタブをタッチしてSet Listページに入ります。
- 2 表示がタイル・ビューになっていることを確認します。そうでない場合は、ページ・メニューからPreferencesコマンドを選んで、Preferencesダイアログ・ボックスでタイル・ビューに切り替えます。



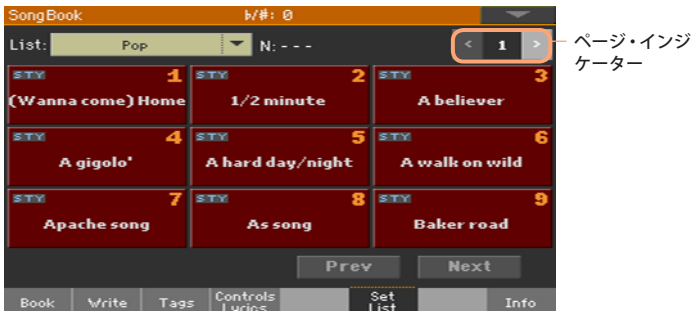
- 3 Listポップアップ・メニューからセット・リストを選びます。

選択したセット・リスト内のソングは、コントロール・パネルのSET LISTキーに割り当てられます。

ページを切り替える

選択したセット・リストの各ソングは、9曲単位で1ページにまとめられています（各ページはコントロール・パネルのSET LISTキーと対応しています）。

- 画面右上のページ・インジケータを操作してセット・リスト内の別のページに移動します。



コントロール・パネルからセット・リストを選ぶ

- 1 SET LISTのLEDが点灯していることを確かめます。
- 2 SET LISTキーのいずれかを押すとセット・リスト・ページの同じ番号のソングが選択されます。

SET LISTキーのLEDが点灯しているとき、各ソングはそれぞれのキーに割り当てられています。SET LISTキーの番号と画面上のタイルとの関係は下図の通りです。



インジケーター	意味
消灯 (オフ)	ソングが割り当てられていない状態
点灯 (オン)	ソングが割り当てられた状態
点滅	ソングが選択されている状態

ディスプレイからセット・リストを選ぶ

- 1 ソング・ブック・ページのSet ListタブをタッチしてSet Listページに入ります。
- 2 タイルをタッチしてソングを選択します。

セット・リストを演奏する

- 1 コントロール・パネルのSTART/STOPキーやPLAY/STOP(▶/■)キーを押して選択したスタイルやソングの演奏開始、停止を行います。
- 2 アレンジャーやプレーヤー・エリアのキーで、スタイルやソングの一時停止、ソングの早送りや早戻しなどができます。
- 3 1つ前や次のソングに移動するときはPrevまたはNextボタンをタッチします。また、セット・リスト内の別のソングに移動する場合は、コントロール・パネルのSET LISTキーを押すか、画面上のタイルをタッチします。

リスト・ビューからセット・リストを演奏する

リスト・ビューではセット・リストをリスト表示します。

セット・リストを選ぶ

- 1 コントロール・パネルのSET LISTキーを押してSongBook > Set Listページを開きます。
- 2 画面表示がリスト・ビューであることを確かめます。そうでない場合はページ・メニューからPreferencesダイアログ・ボックスを開き、リスト・ビューを選びます。



- 3 Listポップアップ・メニューを使って、セット・リストを選択します。
選んだセット・リストに含まれるソングがリスト表示されます(タイル・ビューの場合、各ソングはコントロール・パネルのSET LISTキーに割り当てません)。

セット・リストを演奏する

- 1 リスト内のエントリーを確認します。
- 2 演奏するエントリー名をタッチして反転表示させ、アレンジャーまたはプレーヤーに割り当てます。
- 3 コントロール・パネルのSTART/STOPキーやPLAY/STOP (▶/■) キーを押して選択されたスタイルやソングの演奏開始、停止を行います。
- 4 アレンジャーやプレーヤー・エリアのキーで、スタイルやソングの一時停止、早送り、早戻しなどができます。
- 5 次または前のソングに移動するときはPrevまたはNextボタンをタッチします。また、リスト上の別のエントリーを選択するときは、選択するエントリーをタッチして反転表示させます。

パートⅣ: ソングの録音、スタイルの作成

17 MIDIソングの録音

バックイング・シーケンスのクイック録音

バックイング・シーケンスとは

MIDIソングには16の「トラック」があります。トラックとは別々のパートを指し、それぞれは異なるサウンドを使用します。一般的に、MIDIソングは最初にドラム、次にベース、次は伴奏用ギター、ストリングス…というように、1トラックずつ録音します。

バックイング・シーケンス（クイック録音）機能はMIDIソングの録音が、スタイルの伴奏に合わせて鍵盤を演奏するだけで素早く簡単に行なえます。演奏を保存すると、それが16トラックのMIDIソングに変換され、プレーヤーで再生できます。

スタイルとサウンドの選択

録音を始める前にスタイルとサウンドを選びます。

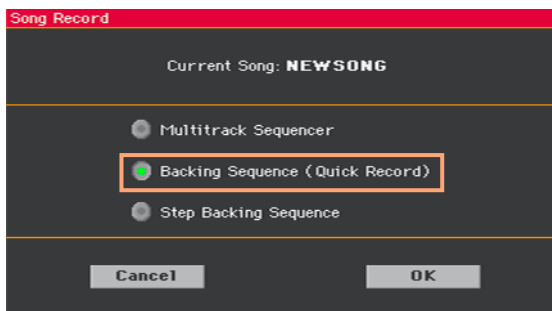
- 1 スタイル・プレイ・モードに入ります。
- 2 スタイルを選びます。
- 3 キーボード・セットを選びます。

バックイング・シーケンス(クイック録音)モードの選択

- 1 コントロール・パネルのSEQUENCERキーを押してシーケンサー・モードに入ります。

シーケンサー・モードのメイン・ページが表示されます。

- 2 コントロール・パネルのRECORDキーを押すと、レコード・モードの選択ダイアログ・ボックスが開きます。




- 3 Backing Sequence (Quick Record) を選択し、OKをタッチしてバックイング・シーケンスの録音ページを開きます。



録音

メトロノームを設定する

- コントロール・パネルの**METRO**  キーを押して、録音中にメトロノームを使用するかどうかを選択します。オンの場合でも、メトロノームの音は録音されません。

録音する

- 1 演奏する前に、使用するスタイル・エレメントを選びます。録音を始める前にバリエーションを選びます。イントロ付きで録音する場合は、いずれかのイントロを選択します。

- 2 録音を開始します。

- コントロール・パネルの**START/STOP**キーを押して伴奏と録音を開始します。
- コントロール・パネルの**PLAY/STOP** (▶/■) キーを押すと、伴奏なしで録音を開始します。その後に**START/STOP**キーを押して、伴奏を後から開始させることもできます。

録音を開始すると、実際の録音が始まる前に**1小節のカウント**が入ります。カウント終了後の演奏が録音されます。

- 3 伴奏に合わせて鍵盤を演奏します。

録音中はスタイル・エレメント(イントロ、バリエーション、フィル、ブレイク、エンディングなど)を切り替えることができます。なおバックিং・シーケンスの録音ではシンクロ・スタート/ストップ、タップ・テンポ、マニュアル・ベース、バランス(伴奏とキーボード・セットとの音量バランス調節)は使用できません。

録音中に伴奏を停止させる場合は、コントロール・パネルの**START/STOP**キーを押すか、いずれかの**エンディング**を選びます。もう一度**START/STOP**キーを押すと伴奏が再開します。

- 4 録音を終了する場合は、コントロール・パネルの**PLAY/STOP** (▶/■) キーを押します。終了するとシーケンサー・モードのメイン・ページに戻ります。

伴奏付きで録音しているときに伴奏を停止する場合は、コントロール・パネルの**START/STOP**キーまたはいずれかの**ENDING**キーを押します。伴奏を再開するときには**START/STOP**キーをもう一度押します。録音を終了するときは、コントロール・パネルの**PLAY/STOP** (▶/■) キーを押します。終了するとシーケンサー・モードのメイン・ページに戻ります。

- 5 シーケンサー・モードのメイン・ページが開いている状態で**PLAY/STOP**キー (▶/■)を押すと、録音したソングが再生されます。

録音中にKAOSSエフェクトを使用する

録音中は、KAOSSエフェクトも使用できます。

- 1 バッキング・シーケンスの録音ページを開き、KAOSSボタンをタッチしてKAOSSページを開きます。



- 2 プリセット・メニューやFavoriteボタンでKAOSSプリセットを選びます。
- 3 録音を開始します。
- 4 録音中にバッキング・シーケンスの録音ページに戻る場合は、コントロール・パネルのEXITキーを押します。
- 5 録音を終了させます。

録音したソングの保存

- 1 録音を終わったらシーケンサー・モードのメイン・ページを開き、ページ・メニューからSave Songコマンドを選んで録音したソングを保存します。

ソング保存ウィンドウが表示されます。



このウィンドウはMedia > Saveページとほぼ同じですが、表示されるファイルはMIDIソング・ファイル(.midと.kar)のみになります。

- 2 Deviceのポップアップ・メニューを開き、記憶デバイスを選び、ソングを保存するフォルダーを選択します。

Open、Closeボタンを使ってフォルダーの内容を確認できます。

スクロール・バーでリスト内の全ソングを確認できます。コントロール・パネルのSHIFTキーを押しながらスクロール・バーの上下の矢印ボタンを押すと、アルファベット順で次または前の文字から始まるソング名に移動できます。また、コントロール・パネルのVALUEダイヤルを回してリストをスクロールさせることもできます。

- 3 すでに保存されているファイルを選ぶか、新規にファイルを作成します。

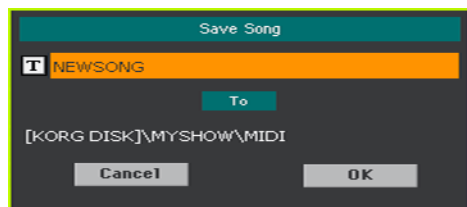
- すでに保存されているファイル(ソング)に上書きをする場合は、上書きするファイルを選びます。このとき、別のソング名にリネームすると上書きせずに別のファイルとして保存します。

上書き保存するファイルにカラオケ・ファイル(.kar)を選択した場合、保存されるソングは同名のMIDIソング(.mid)として保存され、元のカラオケ・ファイルには上書きされません。

- 上書き保存するソングを選んでいない場合、保存されるソングは選択した記憶デバイスに新規保存されます。上書き保存するソングの選択を解除する場合は、リスト内のソング以外の場所をタッチするか、記憶デバイスをもう一度選び直します。

この時点でコントロール・パネルのEXITキーを押すと、ソングを保存せずに保存ウィンドウを閉じます。

- 4 Saveボタンをタッチすると選択したフォルダーにソングが保存されます。このとき、Save Songダイアログ・ボックスが表示されます。



- 5 このとき、ソング名(ファイル名)を変更できます。テキスト・エディット・ボタン([T])をタッチしてバーチャル・キーボードを開き、ソング名を入力します。入力が終わったらOKボタンをタッチしてバーチャル・キーボードを閉じます。

保存済みのファイルを選択していた場合、ファイル名を変更することで別ファイルとして保存でき、元のファイルを上書き保存しません。

- 6 Save Songダイアログ・ボックスに戻り、OKボタンをタッチすると保存を実行します。

18 MP3ソングの録音

MP3ソングの録音

録音の準備をする

- スタイルやソングと一緒に録音する場合は、スタイルまたはソングを選びます。ソングの場合、MIDIソングまたはMP3ソングが選べます。
- 鍵盤で演奏するキーボード・セットを選択します。
- ボーカルやギターにエフェクトをかけて録音する場合は、ボイス/ギター・プリセットを選択します。

MP3レコード・モードに入る

- スタイル・プレイ・モードまたはソング・プレイ・モードのときに、コントロール・パネルのRECORDキーを1秒ほど長押しします。

MP3 Recordダイアログ・ボックスがディスプレイに表示されます。



録音パラメーターを設定する

- **Quality**のポップアップ・メニューを開き、録音するMP3の音質を設定します。
高いレートにすると、高音質になり録音後のMP3ファイルの容量が大きくなります。
低いレートにすると、録音時に音質が少し劣化します。MP3のファイル・サイズは、常に音質とのトレード・オフの関係にあり、高音質を求める場合はそれなりのファイル・サイズになります。
- **Device**/パラメーターで、録音されるMP3ファイルを一時的に保管しておく場所を設定します。

ここでの設定は、MP3ファイルの最終的な保存先を決めるものではなく、録音終了後に別の保存先を指定することもできます。ここを設定するときには、**Free space**/パラメーターで、MP3ファイルを保管する場所に十分な容量があるかどうかを確認してください。なお、現在のファイルの大きさは**File length**に表示されます。

MP3ソングの録音を開始する

- 1 準備が完了したら、ディスプレイに表示されているRecボタンをタッチして録音を開始します。

RecボタンをタッチするとStopボタンに変わり、Statusの表示がRecordingになります。



- 2 演奏を始めます。

録音中は、MP3 Recordダイアログ・ボックスにRecording time (録音時間)、File length (ファイルの大きさ)、Free space (録音可能なストレージの空き容量) が表示されます。

録音を停止せずMP3 Recordダイアログ・ボックスを消す

- EXITキーを押すと、ディスプレイからMP3 Recordダイアログ・ボックスが消え、録音を停止せずにStyle PlayやSong Playページに移動することができます。
- 再びMP3 Recordダイアログ・ボックスを表示させて、ファイルの大きさの確認や録音を停止させるには、RECORDキーを1秒ほど長押しします。

録音を停止せずにEXITキーを押してMP3 Recordダイアログ・ボックスの表示を消した場合は、RECORDキーのLEDが引き続き点滅します。

録音を停止する

- ディスプレイにあるStopボタンをタッチして録音を停止させます。
コントロール・パネルのRECORDキーを押して録音を停止することもできます。

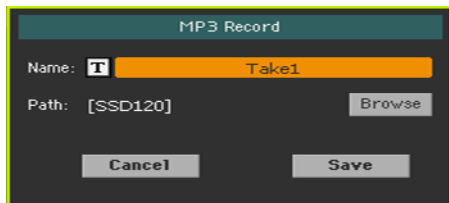
MP3ソングに録音される内容

歌や、鍵盤やギターでの演奏、スタイルやプレーヤーで演奏したMIDIソングやMP3ソング、KAOSSエフェクトで生成されたイベントは、すべて録音できます。

MP3ソングを保存する

MP3ソングの保存

録音を停止すると、下記のMP3ファイルを保存する場所を指定するMP3 Recordダイアログ・ボックスが表示されます。



- 1 テキスト・エディット・ボタン (T) をタッチして、録音したMP3ファイルに名前を付けます。
- 2 Browseボタンをタッチして、録音したMP3ファイルを保存する場所 (storage device、folder) を指定します。
- 3 SaveボタンをタッチしてMP3ファイルを保存します。

保存したらMP3ファイルは他のソングと同様にソング・プレイ・モードで再生することができます。また、保存したMP3ファイルは、コンピューターに移動させて、再生したり編集することができます。

MP3ソングのオーバーダビング (再録音)

MP3ソングは圧縮オーディオ・ファイルです。MP3ソングを録音するということは、圧縮ファイルをさらに圧縮することになります。そのため、圧縮やピッチ・シフト(トランスポーズをした場合)による音質劣化がより顕著になります。

トランスポーズが必要なオーバーダブ録音をする場合は、MP3ソングではなくMIDIパートのみをトランスポーズすることをお勧めします。また、MP3ソングとして保存する(MP3ファイルにする)場合は、録音などすべての工程を完了してからの方が、より高音質なものに仕上がります。

19 MIDIソングをスタイルに変換する

市販やフリー素材のMIDIソング(スタンダードMIDIファイル)を本機のスタイルに変換することができます。本機には最先端のスタイル・コンバーターを内蔵し、ほとんどの場合は元のMIDIソングを忠実に再現できますが、完成度は元のMIDIソングの状態によって変化することがあります。

- 1 コントロール・パネルのSTYLE PLAYキーを押してスタイル・プレイ・モードに入ります。
- 2 コントロール・パネルのRECORDキーを押してStyle Record Mode Selectダイアログ・ボックスを開きます。



- 3 Style Creator Botを選択し、OKボタンをタッチしてファイル選択ウィンドウを開きます。

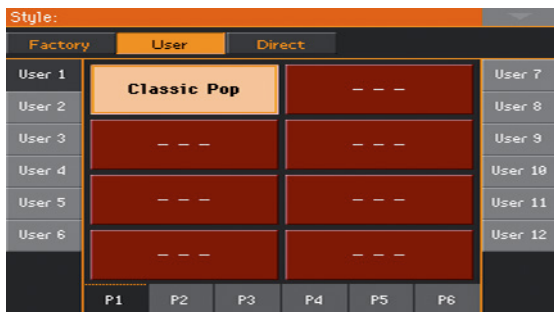


- 4 スタイルに変換するMIDIソング(.midファイル)をタッチして、Selectボタンをタッチします。

- 5 変換が終わったら、変換された新しいスタイルの保存先を指定します。



- 6 変換された新しいスタイルに名前を付けます。テキスト・エディット・ボタン (T) をタッチしてバーチャル・キーボードを開き、新しいスタイル名を入力します。名前を入力したらOKボタンをタッチします。
- 7 Write Styleダイアログ・ボックスに戻ります。保存先を変更する場合はSelectボタンをタッチしてスタイル選択ウィンドウを開きます。スタイルを選ぶときと同じ手順でスタイルの保存先を選びます。スタイルが保存されていない場所にはダッシュ (---)が表示されます。



- 8 Write Styleダイアログ・ボックスに戻り、OKボタンをタッチして保存を実行します。
- 9 スタイルを保存した後、そのスタイルを演奏させてチェックをし、必要に応じてスタイルの微調整をします。

この手順により、すべてのスタイル・エレメント、4つのパッド、4つのキーボード・セット、元のMIDIソングから認識されたコード情報の入ったコード・シーケンスが入ったスタイルを作成できます。

パート V: ビデオ出力 とオーディオ入力

20 外部ディスプレイとの接続

Pa700をTVやビデオ・モニターに接続することで、歌詞やコード・ネームと一緒に演奏するミュージシャンや観客に見せたり、本機のディスプレイの表示内容をそのままミラーリングさせることができます。

外部ビデオ・モニターを接続する

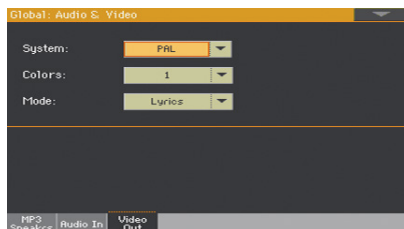
- HDMIまたはVIDEO OUT端子を使用してPa700とTVまたはビデオ・モニターを接続します。動作が保証されているHDMIケーブルを使用してください。

接続する場合、お手持ちのPa700のバージョンとビデオ・モニターのタイプによっては、別のケーブルを選択する必要があるかもしれません。必要なケーブルは、テレビや映像機器販売店で求められます。

Pa700タイプ	VIDEO OUT端子のタイプ	モニター・コネクタ	ケーブル
タイプA (シリアル・ナンバー 39999以下)	RCA	RCA(コンポジット)	RCA-RCA
		SCART	RCA-SCART
タイプB (シリアル・ナンバー 40000以上)	HDMI	HDMI	HDMI-HDMI
		DVI	HDMI-DVI
		VGA	HDMI-VGA

Video Outページに入る

- 1 本機の電源を入れます。
- 2 Global > Audio & Video > Video Outページを開きます。



Pa700タイプAの場合



Pa700タイプBの場合

外部モニターの電源をオンにする

- ビデオ・モニターの電源をオンにし、接続したAV/ソースの入力に合わせて調節します。

ビデオ規格を選択する(Pa700タイプAのみ)

- Systemメニューからビデオ規格を選びます。

System	意味
PAL	ヨーロッパのほぼ全域、南米、アジア、アフリカ諸国で採用。フランス、ロシア、一部のアフリカ諸国ではSECAMテレビでも使用されています(SECAMテレビに接続の場合は白黒表示となります)。
NTSC	北米、中米、一部の南米諸国、日本、韓国、台湾、フィリピン、ミャンマーで採用されています。

モニターが認識されているかどうかを確認する(Pa700タイプBのみ)

- モニターを認識すると、その名前が**Monitor**に表示されます。表示されない場合は、接続を確認してください。

推奨解像度は640x480ピクセルですのでご注意ください。画像が正しく表示されない場合は、モニターの設定(例えば、ズームまたはアスペクト比の調節)を確認してください。

表示色を設定する

- Video OutページのColorsメニューで歌詞と背景の色を選択します。

Colors	意味
1...5	表示色のセットです。見やすいものをお選びください。

表示内容を選択する

- 同ページのModeメニューで外部モニターに表示する内容を選びます。

Mode	意味
Text Only	歌詞とコード(ある場合)が外部モニターに表示されます。
Mirror	本機のディスプレイ表示を外部モニターに出力します(ミラーリング)。

21 オーディオ入力の接続

外部オーディオ機器、マイク、ギターの接続

接続するオーディオ機器に応じて、オーディオ入力を選択します。接続後はインピーダンスとオーディオ出力のルーティングを選択し、オーディオ入力からの信号またはライン入力したオーディオ機器からの信号を、本機のアウトプットに出力されるよう設定します。

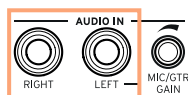
機器の安全を考慮し、本機の電源をオンにしたときは、インプットが常にミュート状態になります。

外部オーディオ機器の接続

本機のオーディオ入力端子に、別のキーボードやマイク、またはギター・エフェクト、メディア・プレーヤー、ミキサーのライン出力などを接続できます。

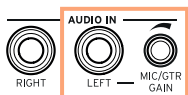
注意: パワー・アンプの接続は本機を破損する原因になりますので絶対に接続しないでください。

本機のAUDIO INのLEFT、RIGHT端子に、オーディオ機器のアウトプットを接続します。どちらか一方のみを接続した場合はモノラルになります。端子は6.3mmフォーン・ジャックの不平衡(TS)です



マイクの接続

AUDIO INのLEFT端子にマイクを接続します。端子は6.3mmフォーン・ジャックの不平衡(TS)です。マイク・ケーブルがXLRプラグの場合は、変換プラグをご使用ください。



マイクの種類について

本機に接続できるマイクには、ダイナミック型とコンデンサー型の2種類があります。

ダイナミック・マイクは電源を必要とせず、一般的にライブ用途で音源以外の周囲のノイズを排除するため単一指向性や鋭指向性を採用しています。

コンデンサー・マイクは専用電源によるファンタム電源が必要です。または、ファンタム電源を供給できるミキサーにコンデンサー・マイクを接続し、ミキサーのインサーション出力またはライン出力から本機の入力端子に接続する方法もありますが、この場合は本機のボイス・プロセッサは使用できません。

コンデンサー・マイクは一般的にレコーディング用で、より広い指向性パターンがあり、周囲の残響音（アンビエンス）や低音の収録に適しています。また、カプセル幅の広いコンデンサー・マイクはボーカル・レコーディングによく使われます。

ギター（またはベース）の接続

リア・パネルのAUDIO INのLEFT端子にギター（またはベース）を接続します。端子は6.3mmフォーン・ジャックの不平衡（TS）です。

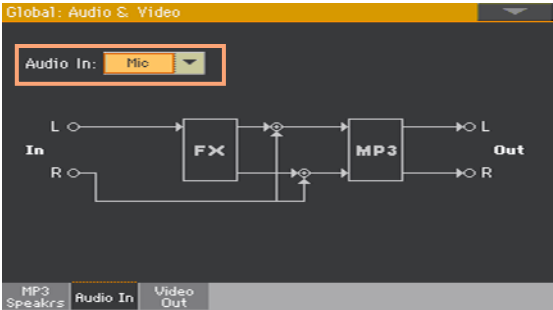


ルーティング設定とエフェクトのミキシング


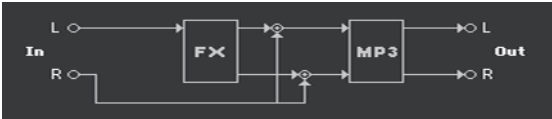
インピーダンスとルーティングの選択

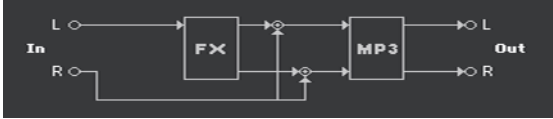
初期設定では、オーディオ入力はマイク用に設定されています。他の入力インピーダンスと信号経路を選択するときは、次の手順で行います。

- 1 Global > Audio & Video > Audio Inページを開きます。



- 2 Audio Inのポップアップ・メニューを開き、インピーダンスとルーティングを選択します。

Audio In	意味
Line	<p>外部オーディオ機器からAUDIO INのLEFT、RIGHT端子への信号は、最終段で本機のサウンドとミックスされます。この場合、ボイスやギター・エフェクトは使用できません。AUDIO INのLEFT、RIGHT端子への信号はMP3レコーダーへ送られます。</p> 
Mic	<p>LEFT端子からのオーディオ信号は、ボイス・プロセッサーを経由して最終段で本機のサウンドとミックスされます。なおRIGHT端子からのオーディオ信号は、本機の左右のアウトプットに流れます。どちらのオーディオ入力からの信号もMP3ソングとして録音できます。</p> 

Audio In	意味
Guitar	<p>LEFT端子からのオーディオ信号は、ギター・プロセッサーを経由して最終段で本機のサウンドとミックスされます。なおRIGHT端子からのオーディオ信号は、本機の左右のアウトプットに流れます。どちらのオーディオ入力からの信号もMP3ソングとして録音できます。</p> 

入力ゲインの調節

マイク、ギター、または外部オーディオ機器を接続したら、次に入力ゲインを調節します。

- 1 スタイル・プレイ・モードまたはソング・プレイ・モードのメイン・ページのVolumeパネルのMIC/INインジケータがオンになっていることを確かめます。オフになっているときは、オンにしてください。



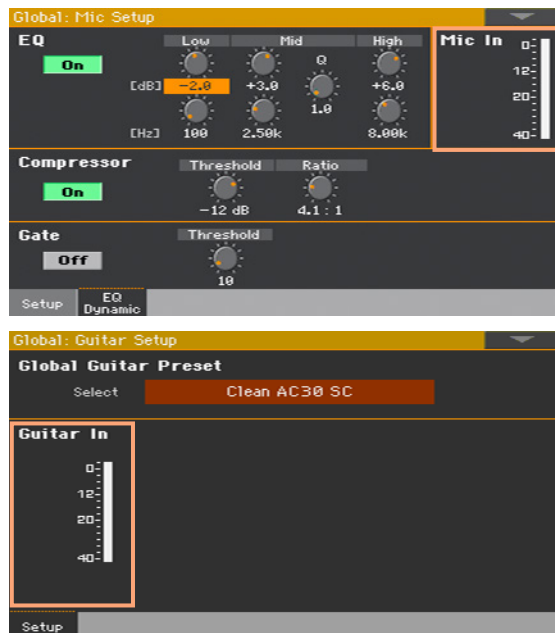
- 2 マイクやギターを接続したときは、リア・パネルのLEFT端子の横にあるMIC/GTR GAINノブで入力ゲインを調節します (0~40dB)。外部オーディオ機器を接続したときは、外部機器で音量を調節します。

歌ったり、演奏したりしながらメイン・ページのVolumeパネルのMIC/INインジケータを見て、レベルを調節してください。



インジケータの色	意味
消灯	信号が入っていない状態。
緑	低～中レベルの信号を入力しています。
オレンジ	入力信号がわずかに歪んでいます。
赤	信号が大きく歪んでいます。

マイクやギターを接続している場合は、Global > Mic Setup > EQ/Dynamicsページで、またはGlobal > Guitar Setup > Setupページで、入力レベルをより詳細にチェックする方法もあります。



マイクや外部オーディオ機器を接続しているときは、インジケータがほぼ常に緑の状態、信号のピーク時のみオレンジになるようにレベルを調節します。赤にならないようにしてください。

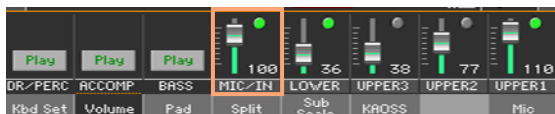
ギターを接続しているときは、信号のピーク時でもインジケータがほぼ緑の状態になるようにレベルを調節します。入力レベルを低く（-20dBを超えないように）保つことが最も良い状態です。

オーディオ入力のオンと入力レベルの設定

オーディオ入力は、メイン・ページですぐにオン、オフを切り替えられ、ミックスされたそれぞれのボリュームを調節することができます。機器の安全を考慮し、本機の電源を入ると、入力レベルは常にゼロに設定されます。

- 1 スタイル・プレイ・モードまたはソング・プレイ・モードのメイン・ページでVolumeパネルを開きます。
- 2 Play/Muteボタンをタッチして、MIC/INチャンネルのオン、オフを切り替えます。

- 3 同じチャンネルのスライダーを操作してマイクのボリュームを調節します。



または、コントロール・パネルのASSIGNABLE KNOB 1でマイクのボリュームを調節する方法もあります(初期設定時)。

スタイルやソングを再生し、マイクと本機のサウンドとの音量バランスを調節します。

22 観客とのトーク

マイクのソロ(トークオーバー)

- 観客とトークをする場合は、メイン・ページのMicパネルにあるTalkOverボタンをタッチします。



このとき、スタイルやソングの音量が下がり、ボイス・エフェクトがオフになります。

- もう一度TalkOverボタンをタッチすると、トークオーバー機能がオフになります。

23 ボイス/ギター・エフェクト

ボイス/ギター・プリセットの選択

オーディオ入力のLEFT端子をマイク入力に設定した場合は、ボイス・エフェクト・プリセットが使用できます。ギター入力に設定した場合は、ギター・エフェクト・プリセットが使用できます。

ボイス・プリセットにはボイス・エフェクトが含まれています。また、ギター・プリセットにはギター・エフェクトが含まれています。

ボイス/ギター・プリセット・ウィンドウを開く

- 1 スタイル・プレイ・モードまたはソング・プレイ・モードのメイン・ページでMicまたはGuitarタブをタッチして、MicまたはGuitarパネルを開きます。
- 2 ボイス・プリセット名またはギター・プリセット名をタッチします。



ボイス/ギター・プリセットの選択

ボイス・プリセット名またはギター・プリセット名をタッチすると、ボイスまたはギター・プリセット選択ウィンドウが表示されます。



- 1 ボイス・プリセットまたはギター・プリセットの別のグループを選択する場合は、まず両サイドのタブをタッチします。
- 2 選択するボイス・プリセット名またはギター・プリセット名をタッチします。



- 3 ボイス・プリセット選択ウィンドウまたはギター・プリセット選択ウィンドウは、コントロール・パネルのEXITキーを押すと閉じます。

ボイス・プリセットまたはギター・プリセットを選択すると、MicパネルまたはGuitarパネルに選択したプリセット名が表示され、ボイスまたはギター・エフェクトが切り替わります。

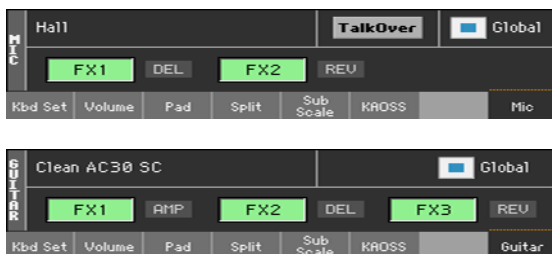


エフェクトの使用

エフェクトにはアンビエンスを加えるものや、マイクの音質を整えたり別の質感に変化させたり、またペダルやラック・エフェクトを追加したり、ギター・アンプやキャビネット・モデルを追加したりすることができます。これらは独立したエフェクトとしてボイス・プリセットまたはギター・プリセットに含まれ、オン、オフを切り替えることができます。

エフェクトの表示

- 1 メイン・ページのMicまたはGuitarタブをタッチして、MicまたはGuitarパネルを開きます。



エフェクトのオン、オフ

- エフェクト・モジュール・ボタン(FX1、FX2、FX3)をタッチして、各エフェクトのオン、オフを切り替えます。エフェクト・モジュール・ボタンの横には、各エフェクト・モジュールで使用しているエフェクト・タイプが表示されます。

タイプ	意味	タイプ	意味
REV	リバーブ	AMP	アンプ
DEL	ディレイ	FILT	フィルター
MOD	モジュレーション	FREQ	フリケンシー
DYN	ダイナミクス	MISC	その他

他のエフェクトを選択する

エフェクト・モジュール・ボタンの横には、各エフェクト・モジュールで使用しているエフェクト・タイプが表示されます。



- 1 エフェクト・タイプにタッチして、対応するエフェクト・エディット・ページに入ります。



- 2 エフェクト名をタッチし、エディット中のブロックに他のエフェクトを選択します。
- 3 EXITキーを押して、メイン・ページに戻ります。

エフェクト・レベルを調節する

コントロール・パネルでボイス・エフェクト・レベルを調節する

本機の初期設定では、コントロール・パネルのASSIGNABLE KNOBS 2でエフェクト・レベルが調節できます（オーディオ入力のLEFT端子をギターに設定されているときは動作しません）。

ディスプレイからボイス・エフェクト・レベルを調整する

- Style Play/Song Play > Voice Preset > FXページを開き、FX's Level/バーチャル・ノブでボイスのFXセンドレベルを調整します。



ディスプレイからギター・エフェクト・レベルを調整する

- Style Play/Song Play > Guitar Preset > FXページを開き、Preset Level/バーチャル・ノブでギターの全体的なプリセット・レベルを調整します。



パート VI: 付録

24 オプションの取り付け

内蔵時計バックアップ用電池の交換

内蔵時計のバックアップ用電池は、市販のリチウム電池と交換可能です。必要な電池は、コンピューターや電子部品の販売店で求められます。電池は、本機にあらかじめ取り付けられているものと同じものに交換してください。**機器を損傷してしまう恐れがありますので、指定された電池以外は使用しないでください！**

警告

- 電池の交換はお客様で自身の責任で行ってください。弊社は、交換の不幸や正しくない使用法により生じたデータの損失や本機の破損、お客様で自身のけが等につきまして一切の責任を負いません。
- 本機のキャビネットを開ける際は、本機の電源をオフにし、AC電源コードをコンセントから抜き、本機が通電していない状態にしてください。

注意：電池交換等のために本機のキャビネットを開ける際は、必ず電源コードをコンセントから取り外してください。

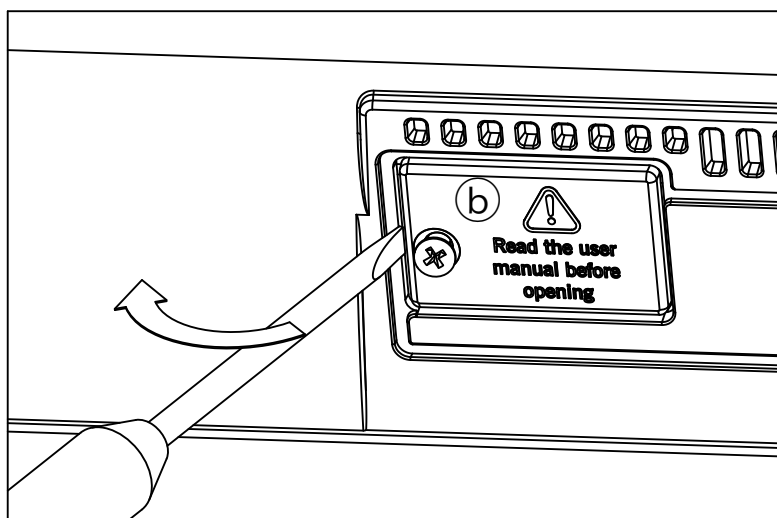
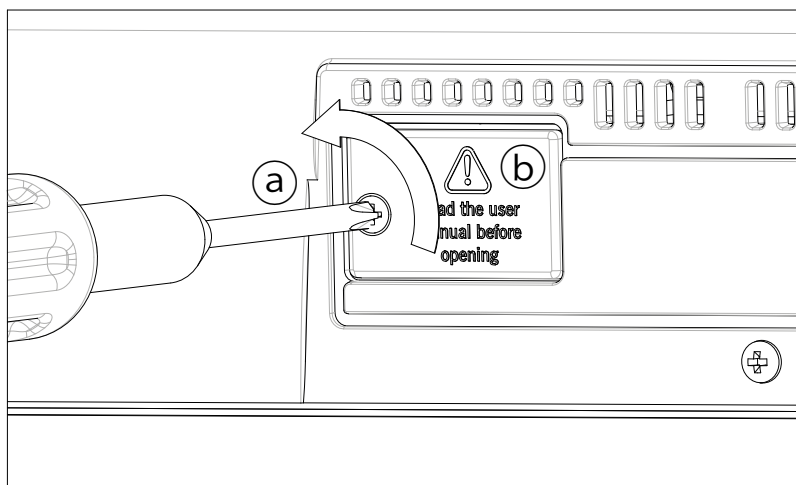
- お客様で自身が発する静電気による本機の基板パーツの破損等を防ぐために、事前に必ず無塗装の金属部(本機以外)に触れて除電してください。

交換手順

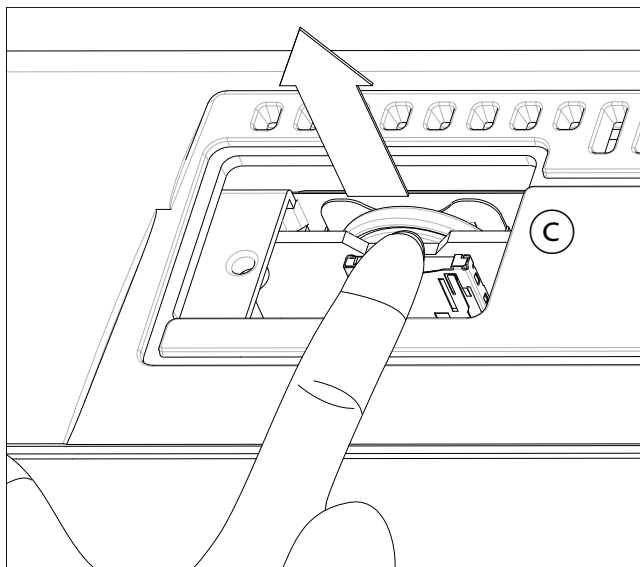
作業には、プラスとマイナス・ドライバーを使用します(本機に付属していません)。

- 1 本機の電源をオフにし、AC電源コードをコンセントから取り外します。

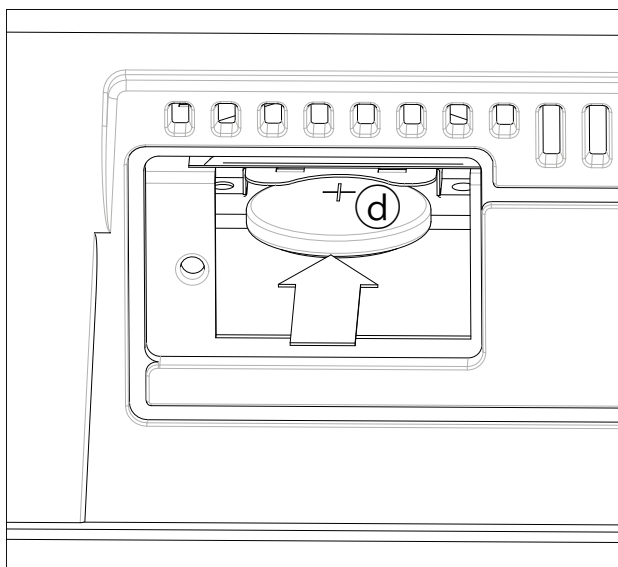
- 2 本機のリア・パネルにある固定ネジ(a)をゆるめ、カバー (b)を取り外します。固定ネジ(a)はカバーにつけたままにしておきます。



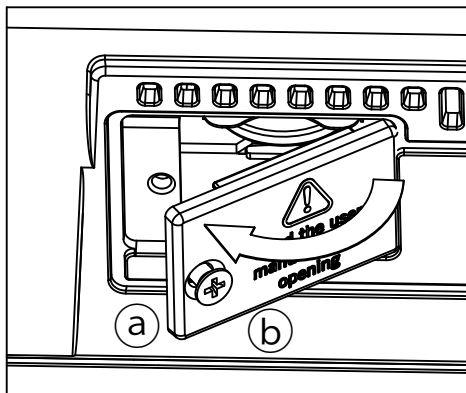
- 3 爪やマイナス・ドライバーの先端部分を利用して、古くなった電池(c)をバッテリー・スロットから取り出します。電池を本体内部に落とさないよう十分に注意してください。



- 4 新しい電池(d)を空いているバッテリー・スロットに差し込みます。このとき、新しい電池のプラス(+)面が上になるように差し込んでください。電池を本体内部に落とさないよう十分に注意してください。



- 5 カバー (b)を元の位置に戻し、固定ネジ(a)を締めてカバーを固定します。



- 6 インストールが終了したら、電源コードを接続して機器の電源を再びオンにします。

microSDカードの装着

市販のmicroSDカード（別売り）を装着することによって、本機の内部メモリーを拡張することができます。microSDカードの挿入はお客様ご自身で行うことができます。機器を損傷させる恐れがあるため、microSDと記載されていないカードは使用しないでください！

本機の内部のカード・スロットに、市販のmicroSDカードを装着することによって、本機の内部メモリーを拡張することが可能です。

警告

- microSDカードの挿入はお客様ご自身の責任で行ってください。弊社は、装着の不手際や正しくない使用方法により生じたデータの損失や本機の破損、お客様ご自身のけが等につきまして一切の責任を負いません。
- 本機のキャビネットを開ける際は、本機の電源をオフにし、AC電源コードをコンセントから抜き、本機が通電していない状態にしてください。

注意：microSDカードの取り外しや装着時は本機とカードの破損を防ぐため、必ず電源コードをコンセントから取り外してください。

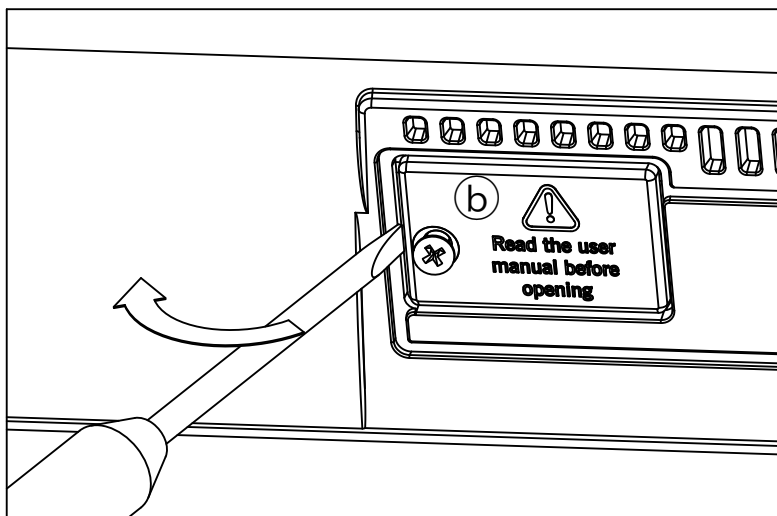
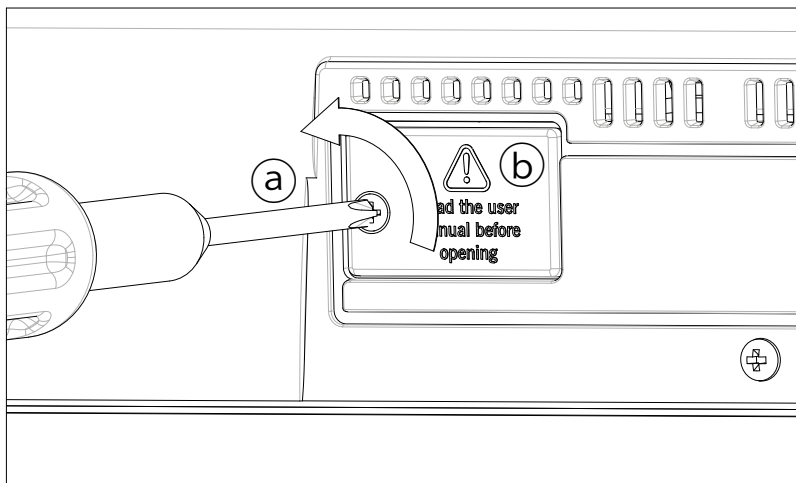
- お客様ご自身が発する静電気による本機の基板パーツの破損等を防ぐために、事前に必ず無塗装の金属部（本機以外）に触れて除電してください。

取り付け手順

作業には、プラスとマイナス・ドライバーを使用します（本機に付属していません）。

- 1 本機の電源をオフにし、AC電源コードをコンセントから取り外します。

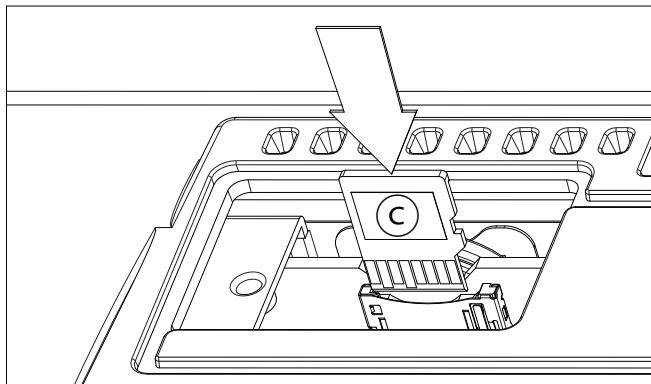
- 2 本機のリア・パネルにある固定ネジ(a)をゆるめ、カバー (b)を取り外します。固定ネジ(a)はカバーにつけたままにしておきます。



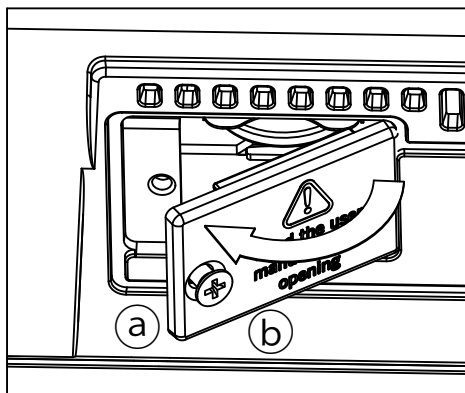
- 3 すでにmicroSDカードが挿入されている場合、カードを押してロックを解除してから取り外します。このとき、カードを本体内部に落とさないよう十分に注意してください。

- 4 microSDカード(c)を空いたカード・スロットに差し込みます。このとき、端子面を上にした状態に差し込みます。ゆっくりていねいに、カチッと音がするまでカードを差し込みます。

注意: microSDカードは必ず正しい向きで差し込んでください。そうでない場合、カードが抜け落ちてしまうことがあります。



- 5 カバー (b)を元の位置に戻し、固定ネジ(a)を締めてカバーを固定します。



- 6 インストールが終了したら、電源コードを接続して機器の電源を再びオンにします。

microSDカードにアクセスする

最大の互換性を確保できるように、本機で初めて使用するカードはフォーマットを行うことを推奨します。**Media > Format**ページへ進み、カードのフォーマットを行ってください (SDデバイス)。警告: ストレージ・デバイスのフォーマットを行うと、そこに蓄積された全てのデータは消去されます!

挿入したmicroSDカードにアクセスするには、各モードの**メディア・ページ**または**ソング選択**ウィンドウを開き、**デバイス選択**から**SD**を選びます。

25 仕様

機能	Pa700
鍵盤	61キー（C2～C7）、ベロシティ対応
システム	アップグレード可能なオペレーティング・システム、マルチタスク、再生しながらロード可能
音源	<p>コルグEDS-X(エンハンスト・ディフィニション・シンセシス・エクパンデッド)</p> <p>レゾナンス付きフィルター、サウンドごとに3バンドEQ</p>
同時発音数	128ボイス、128オシレーター
エフェクト	<p>アカンパニメント/ソング: 2インサート・エフェクト、2マスター・エフェクト(148タイプ)</p> <p>キーボード・サウンド: 1インサート・エフェクト、2マスター・エフェクト(148タイプ)</p> <p>ファイナル・マスタリング・エフェクト: リミッター、マスターEQ</p> <p>ボイス・プロセッサー: 5エフェクト、28ファクトリー、64ユーザー・プリセット</p> <p>ギター・プロセッサー: 3エフェクト、45ファクトリー、64ユーザー・プリセット</p>
サウンド/ドラムキット	<p>ファクトリー: 1,700以上のサウンド(ダンパー対応でレゾナンス付きマルチレイヤー・ステレオ・ピアノ、GMとXG規格互換のサウンド・セットを含む)、106ドラムキット</p> <p>ユーザー: 512サウンド、256ドラムキット</p> <p>デジタル・ドローバー: 9フィート、パーカッション、キーのオン/オフ、リーケージ、ロータリー・スピーカー・エフェクト</p> <p>コルグDNC (Defined Nuance Control) テクノロジー、ナチュラル・アンビエンス・ドラム</p> <p>サウンド、ドラムキットのフル・エディット</p>
サンプリング	<p>128MB圧縮(256MBのリニア・データに相当)</p> <p>KORG、WAV、AIFFおよびSoundFontフォーマットのロード</p> <p>KORG、WAVおよびAIFFフォーマットのセーブ</p> <p>フル・エディット、タイム・スライス</p>

機能	Pa700
スタイル	ファクトリー: 370以上のプリロード・スタイル、自由に再構成可能
	ユーザー: 1,152ロケーション(ユーザー・バンク、ダイレクト・バンクを含む)
	8アカンパニメント・トラック、4キーボード・セット、スタイルごとに4パッドとスタイル・セッティング(スタイルごとにサウンド、アレンジャー・パラメーターを設定)
	ギター・モード x 2、パラレルおよび固定ノート・トランスポーズ・テーブル
	ステップ入力によるスタイル/パッド録音、トラックおよびイベント・エディット
	スタイル・クリエイター・ボット (MIDIソングをスタイルに変換)
コード・シーケンサー	スタイル・コントロール: 3イントロ、4バリエーション、4フィル、1ブレイク、3エンディング、1シンクロ・スタート/ストップ、タップ・テンポ/リセット、ベース・インバージョン、オート・フィル、マニュアル・ベース、メモリー、アカンパニメント・ミュート、ドラム・マッピング、スネア&キック・デジネーション、スタイルをキーボード・セット・モードに
	スタイル・プレイ・モードのコード・シーケンス・レコーダー、プレーヤー
	コード・シーケンスをスタイルとソングブック・エントリーに保存可能
キーボード・セット・ライブラリー	エディット機能: スタイル/ソングブックからの削除、コピー、SMFへのインポート/エクスポート
	キーボード・サウンドの設定を記憶
	ファクトリー: 290以上のキーボード・セット、自由に再構成可能
	ユーザー: 864ロケーション(ユーザーおよびダイレクト・バンクを含む)
KAOSSエフェクト	キーボード・セットのマイ・セッティング
	オートマチックMIDI FXジェネレーター
	65以上のファクトリー・プリセット

機能	Pa700
ソング・プレイ	サポートしているフォーマット: MID、KAR、MP3+Lyrics、MP3+G
	ソング・セレクト、スタート/ストップ、ホーム、巻き戻し、早送り
	歌詞、スコア、コードをディスプレイまたは接続した外部ビデオ・モニターに表示可能
	マーカー機能 (追加、消去、編集、ループ)
	ジュークボックス機能
MP3プレーヤー / レコーダー	MP3プレーヤーおよびレコーダー
	トランスポーズ (+6/-5半音)、テンポ・チェンジ (±30%)
	ボーカル・リムーバー
	スタイル、MIDIソング、MP3ソング、キーボード・サウンド、パッド、マイク、ギター、エフェクト、KAOSSエフェクトをMP3ファイルとして録音可能
シーケンサー	クイック録音 (バックিং・シーケンス)、マルチトラック録音、ステップ録音可能
	16トラック、最大200,000イベント、SMF (MID) フォーマット対応のフル機能を備えたシーケンサー
ソングブック	スタイル、MIDIソング (MIDおよびKARファイル)、MP3ソング、自動選択可能なスタイル・プレイ・モードおよびソング・プレイ・モード
	コントロール・パネルで選択可能な、ユーザー定義のセット・リスト
	フィルタリングと曲順設定オプション
互換性	Paシリーズ: スタイル、パフォーマンス/キーボード・セット、プログラム/サウンド、ソング、ソングブック、パッド
	i-シリーズ: スタイル
パッド	4アサイナブル・パッド+ストップ・キー
	パッド録音機能

機能	Pa700
コントロール	マスター・ボリューム、フェード・イン/アウト、キーボードとアカンパニメント/ソングのバランス、アンサンブル、オクターブ・トランスポーズ、マスター・トランスポーズ、ジョイスティック、2アサイナブル・ノブ、3アサイナブル・スイッチ、テンポ+/-、テンポロック、メトロノームのオン/オフ、ダイヤル、サーチ、シフト、スプリット、レコード
スケール	バーチャル・クォーター・トーン・サブスケール・キーパッド、4xスケール・プリセット
コントロール・イン プット	1ダンパー・ペダル(オプションのDS-1H、ハーフ・ダンパー対応) 1アサイナブル・ペダル/スイッチ
オーディオ・イン プット	2アナログ (LEFT, RIGHT): 6.3mmフォン・ジャック (不平衡、TS)、+20dBm、12k Ω MIC/GTR GAINノブ (LEFT端子にマイク、ギター (ベース) 接続時): 0 ~ +40dB、12k Ω (マイク)/500k Ω (ギター)
オーディオ・アウト プット	2アナログ (LEFT, RIGHT): 6.3mmフォン・ジャック (不平衡、TS)、+21dBm、0.003% THD+N@+18dBm 1ヘッドホン端子: 6.3mmステレオ・フォン・ジャック、16 Ω ~ 200 Ω (50 Ω 推奨)
スピーカー・システム	アンプ: 2 x 25W スピーカー: 2 x ダブル・コーン・スピーカー、バスレフ型
MIDI	IN、OUT端子 USB DEVICE端子を使用してUSB経由でのMIDI ユーザー定義可能なMIDI設定
USB	タイプA (HOST: USBメモリー、コントローラー接続用) x 1 タイプB (DEVICE: パソコン、タブレット接続用) x 1 2.0 High-Speed (480 Mbit/s) 対応 Low-Speed (1.5 Mbit/s) およびFull-Speed (12 Mbit/s) デバイスは、High-Speed USBハブを介して接続可能

機能	Pa700
ストレージ	内蔵メモリー : 960MB
	外付けUSBドライブ(市販)
	microSDカード(市販); リア・パネルのスロット(プラスティック・カバー付き)
ディスプレイ	7インチ・ワイド・カラー・タッチビュー・グラフィカル・ユーザー・インターフェース
ビデオ・アウト	Pa700タイプA(シリアル・ナンバー 39999以下): RCA端子 Pa700タイプB/C(シリアル・ナンバー 40000以上): HDMI端子
クロック	内部システム・クロック
消費電力	25W、AC100V ~ AC240V、50/60Hz(待機電力0.3W)
外形寸法 (W x D x H)	1,030 x 378.3 x 132 mm(譜面立てを除く) 譜面立てを含めた高さ: 355.8 mm
質量	9.9kg
付属品	AC電源コード、譜面立て、クイック・ガイド
オプション	EXP-2フット・コントローラー、XVP-10エクスペディション/ ボリューム・ペダル
	DS-1Hダンパー・ペダル(ハーフ・ダンパー対応)
	PS-1、PS-3ペダル・スイッチ

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

保証規定(必ずお読みください)

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類(ヘッドホンなど)は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

1. 本保証書の有効期間はお買い上げ日より1か年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有償となります。
 - ・ 消耗部品(電池、スピーカー、真空管、フェーダーなど)の交換。
 - ・ お取扱方法が不適当のために生じた故障。
 - ・ 天災(火災、浸水等)によって生じた故障。
 - ・ 故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
 - ・ 不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
 - ・ 保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
 - ・ 本保証書の提示がない場合。

尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より3か月以内に限り無償修理いたします。

3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。

This warranty is valid only in Japan.

4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。詳しくは、お客様相談窓口までお問い合わせください。
5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなることがありますので、あらかじめお客様相談窓口へご相談ください。発送にかかる費用は、お客様の負担とさせていただきます。
6. 修理中の代替品、商品の貸し出し等は、いかなる場合においても一切行っておりません。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損害につきましては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

本保証書は、保証規定により無償修理をお約束するためのもので、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

■お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

コルグ Pa700

保証書

本保証書は、上記の保証規定により無償修理をお約束するものです。

お買い上げ日 年 月 日

販売店名

アフターサービス

■保証書

本製品には、保証書が添付されています。

お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。

なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■保証期間

お買い上げいただいた日より1年間です。

■保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路などのように機能維持のために必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめお客様相談窓口へお問い合わせください。

■修理を依頼される前に

故障かな？とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。それでも異常があるときは、お客様相談窓口へお問い合わせください。

■修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ご質問、ご相談について

修理または商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

お客様相談窓口



0570-666-569

PHS等一部の電話ではご利用できません。固定電話または携帯電話からおかけください。

受付時間: 月曜～金曜 10:00～17:00（祝祭日、窓口休業日を除く）

サービス・センター: 〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-18-12 2F

本 社: 〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2

www.korg.com



Address

KORG ITALY SpA
Via Cagiata, 85
60027 Osimo (AN)
Italy

Web

www.korg.com